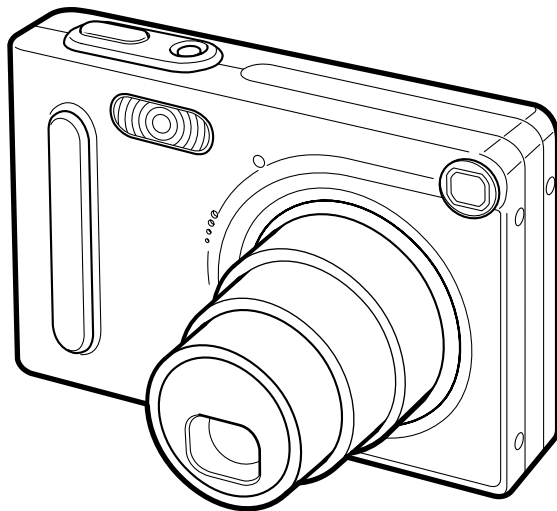
EXILIM

J Z

液晶デジタルカメラ

EX-Z3

取扱説明書
（保証書付き）

ごあいさつ

このたびはカシオ製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
本機をご使用になる前に、必ず別冊の「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
また、本書はお読みになった後も、大切に保管してください。

K874FCM1PMJ

CASIO®

はじめに

付属品の確認

箱を開けたら、まず以下の付属品が全部そろっているかどうかをご確認ください。もし、これらの付属品が全部そろっていなかった場合は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

目次

撮影する（基本編） 34

撮影する（応用編） 43

再生する 62

消去する 72

ファイルの管理について 74

パソコンでファイルを活用する 105

付録 117

あらかじめご承知いただきたいこと

- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤りなど、お気付きのことがありましたらご連絡ください。
- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できません。
- 万一、本機使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 万一、Photo Loader、Photohands使用により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 故障、修理、その他の理由に起因するメモリー内容の消失による、損害および逸失利益等につきまして、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

■著作権について

個人で楽しむ場合などのほかは、画像／動画フォーマットファイルを権利者に無断で複製することは著作権法や国際条約で固く禁じられています。また、これらのファイルを有償・無償に関わらず権利者に無断でネット上で記載したり、第三者に配付したりすることも著作権法や国際条約で固く禁止されています。万一、本機が著作権法上の違法行為に使用された場合、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本文中の以下の用語は、それぞれ各社の登録商標または商標です。

- SDロゴは登録商標です。
- Windows、Internet ExplorerおよびDirectXは米国マイクロソフト社の商標です。
- AppleおよびMacintoshは米国アップルコンピューター社の商標です。
- MultiMediaCard™は、独Infineon Technologies AG社の商標であり、MMCA(MultiMediaCard Association)にライセンスされています。
- AcrobatおよびAcrobat Readerは、Adobe Systems Incorporatedの商標です。
- USBドライバ（マスストレージ）はPhoenix Technologies社のソフトウェアを使用しています。
  Compatibility Software Copyright© 1997
  Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved.
- その他の社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。
- Photo Loader、Photohandsはカシオ計算機（株）の著作物であり、上記を除き、これにかかわる著作物およびその他の権利はすべてカシオ計算機（株）に帰属します。

本機の特徴

- 有効画素数320万画素
  フォトプリンター等で綺麗に印刷できる有効画素数320万画素(CCD総画素数334万画素)の高画質CCD搭載。

- 2.0型TFTカラー液晶モニター搭載

- 12倍シームレスズーム搭載
  光学ズーム3倍／デジタルズーム4倍

- 10MBフラッシュメモリー内蔵
  メモリーカードを使用しなくても撮影ができます。

- 拡張用メモリーカードとしてSDメモリーカードとMMC(マルチメディアカード)に対応

- カメラをUSBクレードルにセットするだけで、カメラ内の充電式電池を充電することができます。

- カメラをUSBクレードルにセットするだけで、簡単にパソコンへ画像データを転送することができます。

- フォトスタンド機能搭載
  カメラをUSBクレードルに乗せたまま、撮影した画像をスライドショー表示できるので、フォトスタンドとして楽しめます。

- ベストショット機能搭載
  煩わしい設定をカメラが自動的に行うので、簡単に綺麗な写真を撮ることができます。

- 2つの記念撮影支援機能を搭載
  二人きりでも二人揃って記念撮影ができるカップリングショット機能、安心して他人に構図をまかせることができるプリショット機能があります。カップリングショット機能とプリショット機能はベストショット機能の中にあります。

- トリプルセルフタイマーモード搭載
  セルフタイマー撮影を自動的に3回くり返すモードを搭載しました。

- リアルタイムヒストグラム機能を搭載
  ヒストグラム表示を確認しながら露出の調節ができます。難しい露出条件でも、意図した露出の画像が手軽に撮影できます。

- ワールドタイム機能搭載
  簡単に現地の時間にセットできます。世界162都市(32タイムゾーン)に対応しています。

- アラーム機能搭載
  アラーム機能付きですので、目覚まし時計の代わりにもなります。また、登録した画像をアラームと同時に表示させることもできます。

- アルバム機能搭載
  撮影した画像をレイアウトしたHTMLファイルを作成し、Webブラウザで見たり、印刷することができます。また、自分のホームページ用データとしても利用することができます。

- カレンダー表示が可能
  1ヶ月分のカレンダー表示の日付上に、その日に撮影した最初の画像を表示させることができ、見たい画像を素早く探すことができます。
- 音声付きムービー撮影機能を搭載
- DCF(Design rule for Camera File system)対応
  画像データは統一規格のDCF規格に準拠しているため、同規格に準じた他の機器との互換性があります。
- DPOF(Digital Print Order Format)対応
  DPOF規格に対応しているため、同規格に準じたデジタルDPEサービスを簡単に利用することが可能です。
- PRINT Image MatchingⅡ対応
  本製品はPRINT Image MatchingⅡに対応しています。PRINT Image MatchingⅡ対応プリンタでの出力および対応ソフトウエアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。
- USB DIRECT - PRINT対応
  本製品はセイコーエプソン株式会社提唱のUSB DIRECT - PRINTに対応しています。本製品はUSB DIRECT - PRINT対応プリンタに直接接続し、デジタルカメラのモニタ上で写真選択や印刷開始を指示することができます。
- Photo Loader、Photohands付属
  好評な自動取り込み機能を備えたPhoto Loaderを付属。レタッチ機能を備えたPhotohands も付属。更に多彩に画像を活用できます。

使用上のご注意

撮影前のご注意

必ず事前にためし撮りをして、カメラに画像が正常に記録されていることを確認してください。

データエラーのご注意

- 本機は精密な電子部品で構成されており、以下のお取り扱いをすると内部のデータが破壊される恐れがあります。
  - カメラの動作中に電池やメモリーカードを抜いたり、USBクレードルにセットした
  - 電源を切ったときに【動作確認用ランプ】が点滅している状態で電池やメモリーカードを抜いたり、USBクレードルにセットした
  - 通信中にUSBケーブルがはずれたり、USBクレードルからカメラやACアダプターがはずれた
  - 消耗した電池を使用し続けた
  - その他の異常操作

このような場合、画面にメッセージが表示される場合があります（125ページ）。画面に対応したご処置をお願いいたします。

使用環境について

- 使用できる温度の範囲は、0℃〜40℃です。
- 次のような場所には置かないでください。
  - 直射日光のあたる場所、湿気やホコリの多い場所
  - 冷暖房装置の近くなど極端に温度、湿度が変化する場所
  - 日中の車内、振動の多い場所

結露について

- 真冬に寒い屋外から暖房してある室内に移動するなど、急激に温度差の大きい場所へ移動すると、本機の内部や外部に水滴が付く（結露）ことがあります。結露は故障の原因になりますので、ご注意ください。結露を防ぐには、温度差の大きな場所の間を移動する前に、本機をビニール袋で密封しておき、移動後に本機を周囲の温度に充分慣らしてから取り出して、電池ブタを開けたまま数時間放置してください。

レンズについて

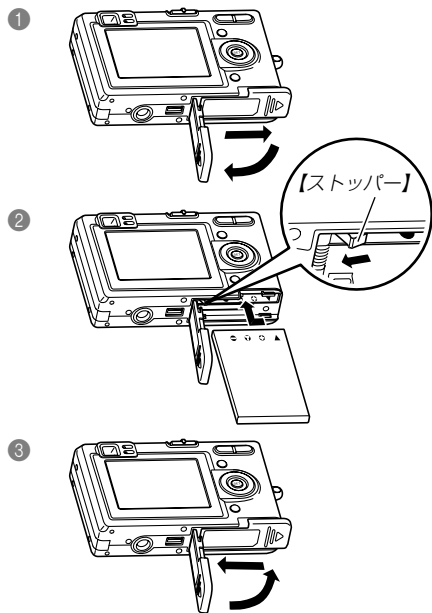
- レンズ面は強くこすったりしないでください。レンズ面に傷が付いたり、故障の原因となります。
- レンズ面が指紋やゴミなどで汚れていると、カメラ本体の性能が十分に発揮できませんので、レンズ面には触れないでください。レンズ面の汚れは、ブロアー等でゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。

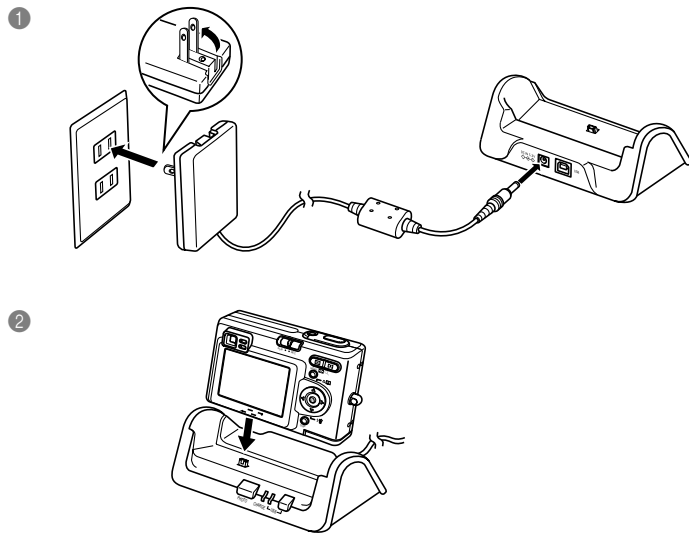
その他の注意

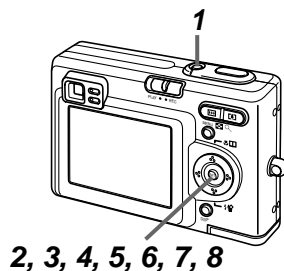
- 使用中、本機は若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- 本機が汚れた場合は、乾いた柔らかい布で拭いてください。

早分かりガイド

はじめに電池を充電する

1. 電池を入れます(21ページ)。

2. カメラをUSBクレードルにセットして、電池を充電します(23ページ)。

- 約2時間でフル充電されます。

画面メッセージの言語／日時を設定する

重要! • お買い上げ後、初めて撮影する前に設定してください(詳しくは31ページ参照)。

1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。

2. 【▲】を押して、言語(日本語)を選び、【SET】を押して言語を設定します。

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で自宅都市のエリアを選び、【SET】を押して自宅都市のエリアを選びます。

4. 【▲】【▼】で自宅都市を選び、【SET】を押して自宅都市を設定します。

- 日本で使う場合は“Tokyo”を選んでください。

5. 【▲】【▼】でサマータイムの設定を選び、【SET】を押してサマータイムを設定します。

- 日本で使う場合は“切”を選んでください。

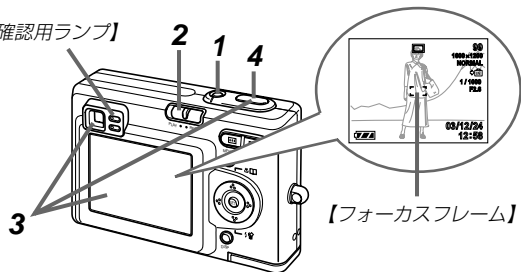
6. 【▲】【▼】で日時の表示スタイルの設定を選び、【SET】を押して表示スタイルを設定します。

7. 日付と時刻を合わせます。

8. 【SET】を押します。

- 設定を終了します。

撮影する

（詳しくは34ページ参照）

1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。

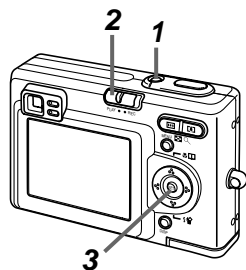
2. 【モードスイッチ】を“REC”に合わせます。

3. カメラを撮影する被写体に向け、【液晶モニター】または【ファインダー】を覗いて、【シャッター】を半押ししてピントを合わせます。

- ピントが合うと【フォーカスフレーム】が緑色になり、緑色の【動作確認用ランプ】が点灯します。

4. カメラを固定し、静かに【シャッター】を押します。

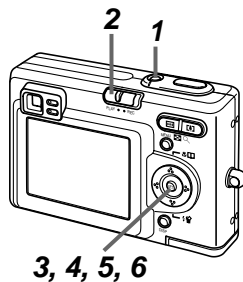
撮影したファイルを見る（再生する）

（詳しくは62ページ参照）

1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。

2. 【モードスイッチ】を“PLAY”に合わせます。

3. 【◀】【▶】を押すと、記録したファイルの戻し／送りができます。

撮影したファイルを消去する

（詳しくは72ページ参照）

1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。

2. 【モードスイッチ】を“PLAY”に合わせます。

3. 【▼】（ ）を押します。

4. 【◀】【▶】を押して、消去したいファイルを選びます。

5. 【▲】【▼】を押して、“消去”を選びます。

- 消去を中止したいときは、“キャンセル”を選んでください。

6. 【SET】を押します。

- ファイルが消去されます。

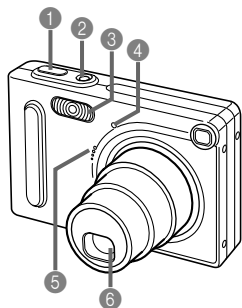
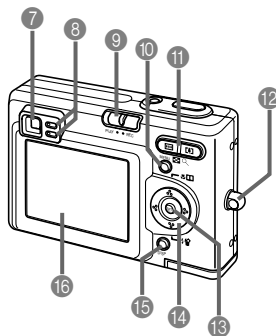
準備する

初めてご使用になる方はここからお読みになり、撮影前の準備を行ってください。

各部の名称

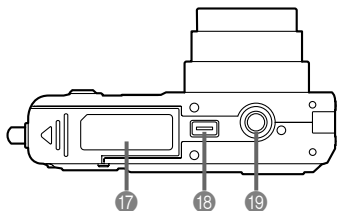
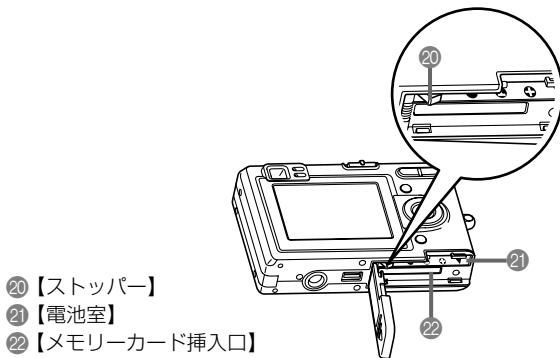
この取扱説明書では、本機の各部の名称を次のように【　】を使って表記します。スイッチやボタンなどの場所がわからなくなった場合は、こちらをご参照ください。

カメラ本体

■ 前面部

❶【シャッター】
❷【電源ボタン】
❸【フラッシュ】
❹【セルフタイマーランプ】
❺【マイク】
❻【レンズ】

■後面部

❼【ファインダー】
❽【動作確認用ランプ】
❾【モードスイッチ】
❿【MENU】
⓫【ズームボタン】
⓬【ストラップリング】
⓭【SET】
⓮【▲】【▼】【◀】【▶】
⓯【DISP】
⓰【液晶モニター】

■底面部

⑰【電池カバー】
⑱【クレードル接続端子】
⑲【三脚穴】
※ 三脚に取り付けるときに使用します。

⑳【ストッパー】
㉑【電池室】
㉒【メモリーカード挿入口】

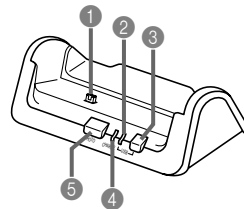
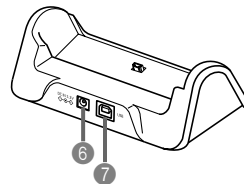
USBクレードル

カメラをUSBクレードルにセットするだけで、次のようなことができます。

- 充電式電池を充電することができます(23ページ)。
- 撮影した画像を、パソコンに転送することができます(93ページ)。
- フォトスタンド機能を利用して、撮影した画像のスライドショーを見ることができます(71ページ)。

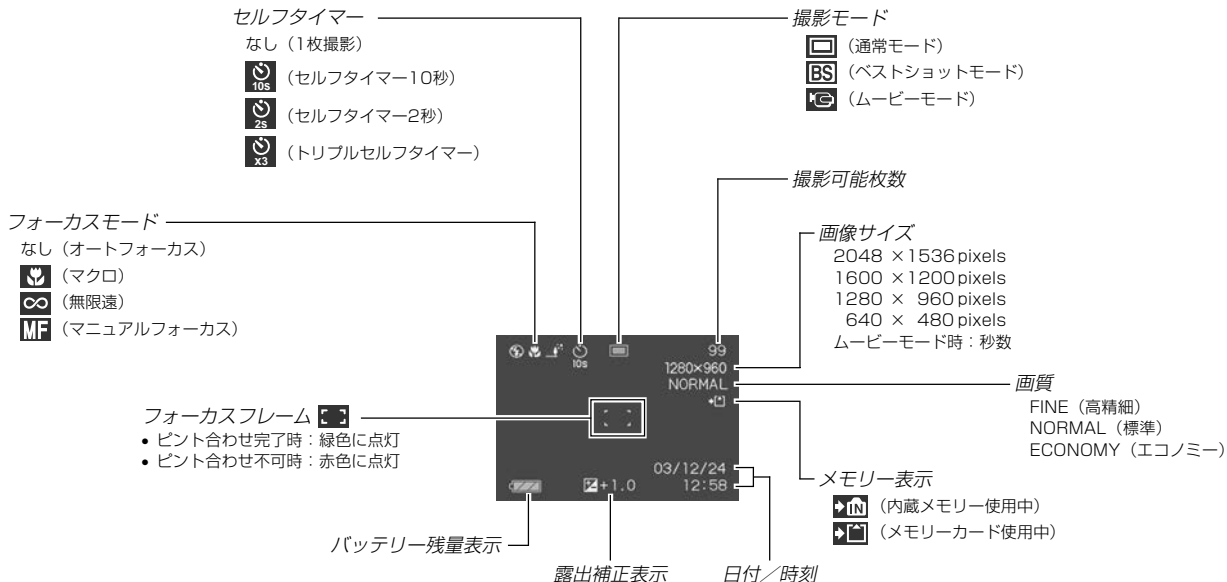
■前面部

❶【カメラ接続端子】
❷【USBランプ】
❸【USB】
❹【CHARGEランプ】
❺【PHOTO】

■後面部

❻【DC IN 5.3V】
(外部電源端子)
❼【USB】
(USB接続端子)

液晶モニターの表示内容

【液晶モニター】には、さまざまな情報が表示されます。

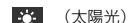
RECモード時

ホワイトバランス表示

表示なし（オート）

（太陽光）

（日陰）

（電球）

（蛍光灯）

MWB（マニュアル）

デジタルズーム表示

シャッター速度

- 絞りとシャッター速度はAE（自動露出）が適正範囲でない場合、【シャッター】を半押ししたときにオレンジ色で表示されます。

絞り値

ISO感度

フラッシュモード表示

表示なし（自動発光）

（発光禁止）

（強制発光）

（赤目軽減）

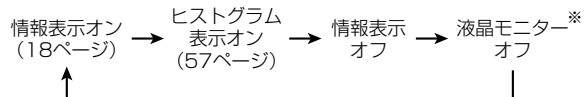
- 自動発光時にフラッシュ発光する場合は、【シャッター】を半押ししたときに が表示されます。

ズームバー

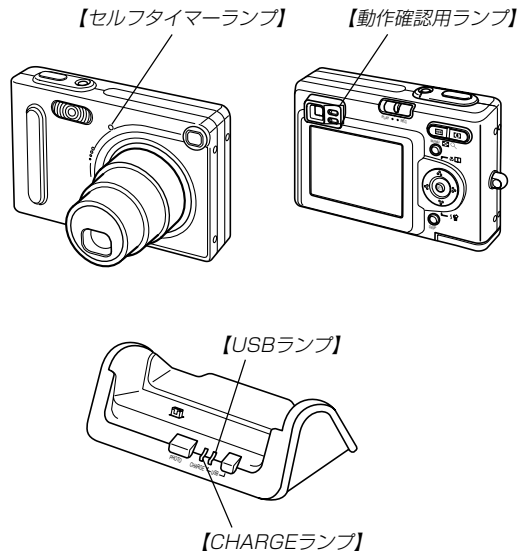
左部分が光学ズーム域
右部分がデジタルズーム域

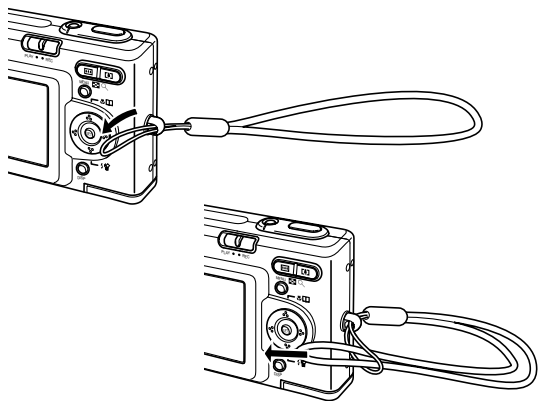
PLAYモード時

液晶モニターの表示内容を切り替える

【DISP】を使って、【液晶モニター】に表示される内容を切り替えることができます。

※ 下記のモードでは【液晶モニター】はオフにはなりません。
PLAYモード、ベストショットモード、ムービーモード

ランプについて

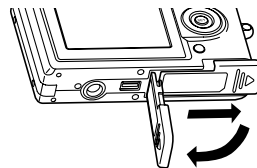
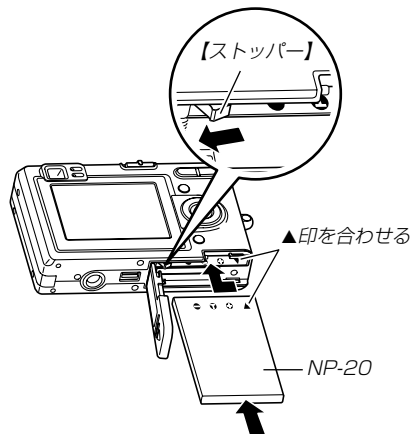
ランプの色や点灯、点滅によってカメラ本体やUSBクレードルの動作状況を知ることができます。詳しくは「ランプの状態と動作内容」(119ページ)をご覧ください。

ストラップの取り付けかた

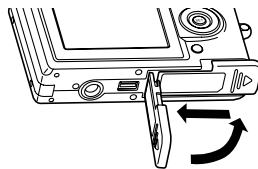
ストラップは、図のように【ストラップリング】に取り付けます。

重要! ● 本機操作時は落下を防止するため、必ずストラップに指を通した状態で使用してください。
- 付属のストラップは本機専用です。他の用途に使用しないでください。
- ストラップを持って本機を振り回さないでください。

電源について

本機は専用リチウムイオン充電池(NP-20)を電源として利用します。

充電式電池を入れる

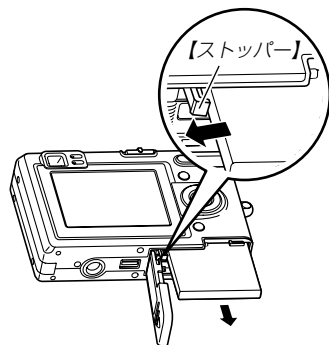
1. 本体底面の【電池カバー】を押しながら、矢印の方向にスライドさせて開きます。

2. 図のようにカメラと電池の▲印を合わせるようにして、電池側面で【ストッパー】を矢印の方向にずらしたまま電池をセットします。

• 電池の底の部分を押して【ストッパー】が電池にしっかりかかるのを確認してください。

3. 【電池カバー】を図のように矢印の方向に押しつけながら、スライドして閉めます。

重要! • 電池は、必ず専用リチウムイオン充電池（NP-20）をお使いください。他の電池は使用できません。

電池は、最初充電されておりません。「充電式電池を充電する（23ページ）に従って充電してください。

充電式電池を取り出す

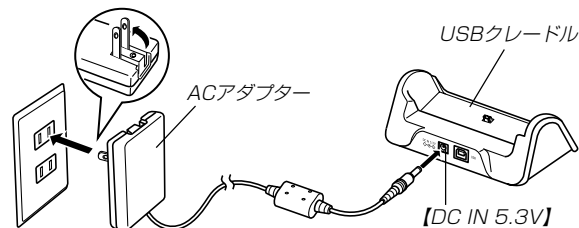
1. 【電池カバー】を開きます。

2. 【ストッパー】を矢印の方向にずらすと、電池が少し出て来ます。

3. 出て来た電池を引き抜きます。

- 電池を落とさないようにご注意ください。

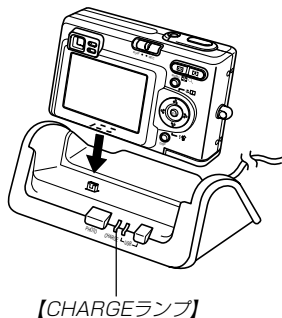
充電式電池を充電する

1. USBクレードルの【DC IN 5.3V】に付属のACアダプターを接続します。

2. ACアダプターのプラグを起こし、家庭用コンセントに接続します。

3. カメラの電源を切ります。

4. カメラをUSBクレードルの上にセットします。

- カメラの電源を入れたまま、USBクレードルの上にセットしないでください。
- USBクレードルの【CHARGEランプ】が赤色に点灯し、充電を開始します。充電を完了すると、【CHARGEランプ】が緑色の点灯に変わります。

【CHARGEランプ】

5. 充電を完了したら、USBクレードルからカメラを取りはずします。

重要!

- 約2時間※でフル充電されます。
  ※ 充電時間は、電池の容量や残量、使用環境によって変化します。
- 専用リチウムイオン充電池(NP-20)の充電は、同梱のUSBクレードル(CA-21A)、別売品のUSBクレードル(CA-21)、または別売の専用充電器(モバイルチャージャー：BC-10L)をお使いください。他の充電器では使用できません。
- ACアダプターは、必ず付属のACアダプターをお使いください。それ以外のACアダプターは使用しないでください(別売品：AD-C40／C620J／C630Jは使用できません)。
- ACアダプターは100～240Vの電源に対応していますが、使用する国によってはプラグ形状が合わないなどの問題があるため、現地で使用可能かどうかを事前にご確認ください。
- カメラの【クレードル接続端子】は、USBクレードルの【カメラ接続端子】にしっかりと差し込んでください。
- カメラ使用直後や周辺温度が高温状態または低温状態で充電しようとすると、充電が開始されない場合があります(【CHARGEランプ】がオレンジ色に点灯します)。その場合は常温で放置してください。電池の温度が充電可能な温度になると、充電を開始します(【CHARGEランプ】が赤色点灯に変わります)。

- 充電中にエラーが起こったときは【CHARGEランプ】が赤色に点滅します。原因は、本体の不良、カメラや電池のセット(装着)不良、電池不良です。USBクレードルからカメラを取りはずし、カメラが動作するか確認してください。カメラが動作する場合は、電池を使い切ってから充電してください。
  動作しない場合は、電池のセット不良の可能性があります。電池をカメラからはずし、電池接点部が汚れていないか確認してください。汚れている場合は、乾いた布で拭いてください。また、ACアダプターのコンセントやプラグがはずれかけていないか確認してください。
  上記確認の後、再度USBクレードルにカメラをセットしても同じ症状になる場合は、カシオテクノ・サービスステーションにお問い合わせください。
- USBクレードル上では、フォトスタンド機能、充電およびUSB通信しかできません。

■電池寿命の目安

下記の電池寿命は、温度23℃で使用した場合の電源が切れるまでの目安であり、保証時間、または保証枚数ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

連続撮影枚数(撮影時間)※1	約450枚(約1時間15分)
標準撮影枚数(撮影時間)※2	約140枚(約1時間10分)
連続再生時間(静止画)※3	約2時間00分

使用電池：NP-20(定格容量：680mAh)

- 測定条件
  ※1 連続撮影
  温度(23°C)、液晶モニターオン、フラッシュ非点灯、約10秒に1枚撮影
  ※2 標準撮影
  温度(23°C)、液晶モニターオン、フラッシュ発光(2枚に1回)、30秒毎にズームのワイド端とテレ端で交互に撮影、10回撮影に1度電源を切／入操作
  ※3 連続再生
  温度(23°C)、約10秒に1枚ページ送り
- 上記数値は、新品の電池のフル充電状態での数値です。繰り返し使用すると、電池寿命は徐々に短くなります。
- フラッシュやズームなどの使用頻度や電源が入った状態の時間により、撮影時間または枚数は大幅に異なる場合があります。

■電池を長持ちさせるために

フラッシュを使用しないで撮影するときは、フラッシュの発光方法を（発光禁止）に設定してご使用いただくと、電池寿命が長くなります（39ページ参照）。

■バッテリー残量表示

電池が消耗すると【液晶モニター】に表示されているバッテリー残量表示が下記表のように変化します。 の状態は電池残量が少ないことを表しています。 の状態では撮影できません。速やかに電池を充電し直してください。

電池残量	多 ←――――→ 少
画面情報表示	→ → →

電源に関する使用上の注意

■電池使用時の注意

使用上のご注意

- この電池は、カシオデジタルカメラ専用のリチウムイオン充電池です。適応機種については、お使いのカメラの取扱説明書でご確認ください。
- 専用リチウムイオン充電池（NP-20）の充電は、同梱のUSBクレードル（CA-21A）、別売品のUSBクレードル（CA-21）、または別売の専用充電器（モバイルチャージャー：BC-10L）をお使いください。他の充電器では使用できません。
- 電池は、最初は充電されておりません。必ず最初に充電してください。
- 寒い場所では、電池の特性上、充分に充電された電池を使用しても、使用時間が短くなります。
- 充電は10℃～35℃の温度範囲で行ってください。範囲外の温度で充電すると、充電時間が長くなったり、充分な充電ができないことがあります。
- 充電直後でも電池の使用時間が大幅に短くなった場合は、電池の寿命と思われますので、新しいものをお買い求めください。

保存上のご注意

- リチウムイオン充電池は小型で高容量の電池ですが、充電された状態で長期間保存すると特性が劣化することがあります。
  - しばらく使わない場合は、使い切った状態で保存してください。
  - 使用しないときは必ず充電池をデジタルカメラから取りはずしてください。取り付けたままにしておくと、電源が切れていても微少電流が流れていますので、電池が消耗し、充電に時間がかかったり、こわれたりします。
  - 乾燥した涼しい場所（20 ℃以下）で保管してください。

■充電式電池の取扱について

●リサイクルのお願い

不要になった電池は、貴重な資源を守るため廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

＜最寄りのリサイクル協力店 へ＞

詳細は、社団法人　電池工業会小形二次電池再資源化推進センターのホームページをご参照ください。

- ホームページ　http://www.JBRC.com/

●使用済み充電式電池の取り扱い注意事項

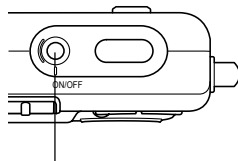
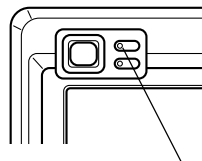
- プラス端子、マイナス端子をテープ等で絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。

■USBクレードル／ACアダプター使用時の注意

●表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・故障・感電の原因となります。
●ACアダプターの電源コードを傷つけたり、破損したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したりしないでください。電源コードが破損し、火災・事故・感電の原因となります。
●ACアダプターのコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・故障・感電の原因となります。
●濡れた手でACアダプターを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
●タコ足配線をしないでください。火災・故障・感電の原因となります。
●万一、ACアダプターの電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）、販売店またはカシオテクノ・サービスステーションに修理をご依頼ください。そのまま使用すると火災・故障・感電の原因となります。

- ACアダプターを抜き差しする際は、必ずカメラをUSBクレードルから取りはずした状態で行ってください。
- 充電中、USB通信中、フォトスタンド機能使用中、ACアダプターは若干熱を持ちますが、故障ではありません。
- ご使用にならないときは、ACアダプターをコンセントから必ずはずしてください。
- ACアダプターの上に毛布などがかぶさらないようにしてください。火災の原因となります。

電源を入れる／切る

電源の入／切は【電源ボタン】で行います。
【電源ボタン】を押すと電源が入り、緑の【動作確認用ランプ】が一時、点灯します。再度【電源ボタン】を押すと、電源が切れます。

重要!
- オートパワーオフ機能により電源が切れた場合は、【電源ボタン】を押して、再度電源を入れてください。
- 撮影モードで電源を入れると、レンズが出てきます。その際にレンズを押さえたり、ぶつけたりしないようご注意ください。

電池の消耗を抑えるための機能

電池の消耗を抑えるために、以下の2通りの設定ができます。

スリープ：RECモード時に一定時間操作をしないと、【液晶モニター】のみ消灯します。ボタン操作をすると【液晶モニター】が再度点灯します。
オートパワーオフ：一定時間操作しないと電源が切れます。

1. **電源を入れます。**

2. **【MENU】を押します。**

3. **【◀】【▶】で"設定"タブを選びます。**

4. **【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【▶】を押します。**

スリープの設定："スリープ"

オートパワーオフの設定："オートパワーオフ"

- メニューのたどりかたについては30ページを参照してください。

5. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。**

スリープの設定内容："30秒""1分""2分""切"

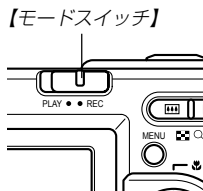
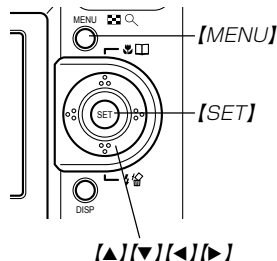
オートパワーオフの設定内容："2分""5分"

- PLAYモードではスリープは働きません。
- スリープ中にいずれかのボタンを押すと、スリープを解除してすぐに撮影できる状態になります。
- 以下の状態では、オートパワーオフ、スリープは働きません。
  - 本機のUSBクレードルを通じて本機を外部のパソコンなどと接続しているとき
  - スライドショー中

メニュー画面の操作について

本機ではメニュー画面を使用してさまざまな操作を行います。この操作をまず覚えてください。【MENU】を押すと、メニュー画面が表示されます。メニューの内容はREC(撮影)モードとPLAY(再生)モードでは異なります。ここでは例としてRECモードでの操作を説明します。

1. 電源を入れ、【モードスイッチ】を"REC"に合わせます。

- PLAYモードにして操作を行うときは"PLAY"に合わせます。

2. 【MENU】を押します。

●メニュー画面で使うキーについて

【◀】【▶】	タブを選びます。【▶】は項目の決定にも使います。
【▲】【▼】	設定項目を選びます。
【SET】	選択した項目に決定します。
【MENU】	メニュー画面の操作を中断します。

3. 【◀】【▶】で設定したい項目のあるタブを選びます。

4. 【▲】【▼】で設定したい項目を選び、【▶】を押します。

- 【▶】を押す代わりに【SET】を押しても、次の画面に移ります。

例）設定項目"撮影モード"を選んだ場合

5. 【▲】【▼】で設定内容を選びます。

6. **選択した内容を決定します。**

- 【SET】を押すと内容が決定され、メニュー画面から出ます。
- 【◀】を押すと内容が決定され、メニュー画面に戻ります。続けて他の項目を設定することができます。
- 他のタブに移りたいときは、【◀】を押して、【▲】でタブに戻り、【◀】【▶】で他のタブに移ってください。

- メニューの内容については「メニュー一覧表」(117ページ)を参照してください。

表示言語／日時を設定する

お買い上げ後初めて撮影をする前に、下記の設定を行ってください。

- 画面のメッセージの言語設定
- 自宅の都市の設定
- 表示スタイルの設定
- 日時設定(この日時は、印刷情報などに利用されます)

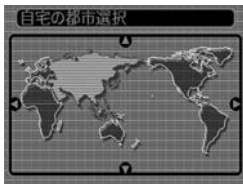
重要!

- 電池やUSBクレードルで電源が供給されないと、日時がリセットされてしまいます。その場合は、日時設定画面が表示されますので、再度日時を設定してください。
- 電池が消耗した状態で放置すると、約2日で日時がリセットされます。
- 日時がリセットされているときに電源を入れると、毎回、日時設定画面が表示されます。
- 日時を設定しないと、間違った時間データによって記録されてしまいますので、必ず設定してください。

1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で言語を選び、【SET】を押します。

日本語　：日本語
English　：英語
Français　：フランス語
Deutsch　：ドイツ語
Español　：スペイン語
Italiano　：イタリア語
Português：ポルトガル語
中國語　：中国語（繁体）
中国语　：中国語（簡体）
한국어　：韓国語

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で自分の住んでいる地域を選び、【SET】を押します。

4. 【▲】【▼】で自分の住んでいる都市を選び、【SET】を押します。

- 日本で使う場合は“Tokyo”を選んでください。

5. 【▲】【▼】でサマータイムの設定を選び、【SET】を押します。

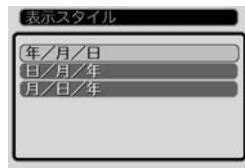
入：サマータイムになります。

切：通常の時刻になります。

- 日本で使う場合は“切”を選んでください。

6. 【▲】【▼】で画面に表示される日付のスタイルを選び、【SET】を押します。

例）2003年10月23日

年／月／日：03/10/23
日／月／年：23/10/03
月／日／年：10/23/03

7. 日付と時刻を合わせます。

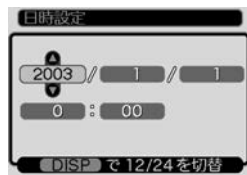
【▲】【▼】を押す：

カーソル（選択枠）の部分の数字などを変えます。

【◀】【▶】を押す：

カーソル（選択枠）を移動します。

【DISP】：

１２時間表示と２４時間表示の切り替えができます。

8. 【SET】を押して、設定を終了します。

撮影する（基本編）

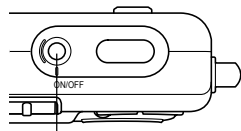
ここでは最も基本的な撮影方法について説明します。

基本的な撮影のしかた

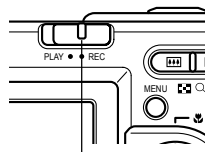
本機では被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度を自動的に調整します。撮影された画像は、順次内蔵フラッシュメモリーに保存されます。

- 市販のメモリーカード（SDメモリーカードまたはMMC〈マルチメディアカード〉）に保存することもできます（89ページ）。

1. **【電源ボタン】を押して、電源を入れます。**

- 【液晶モニター】に画像またはメッセージが表示されます。

【電源ボタン】

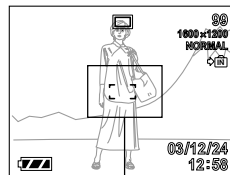
2. **【モードスイッチ】を"REC"に合わせます。**

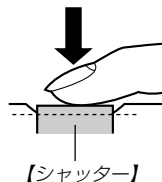
- RECモードになり、撮影できる状態になります。

【モードスイッチ】

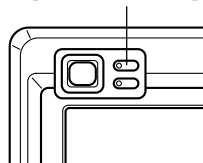
3. **【液晶モニター】に表示されている【フォーカスフレーム】を被写体に合わせます。**

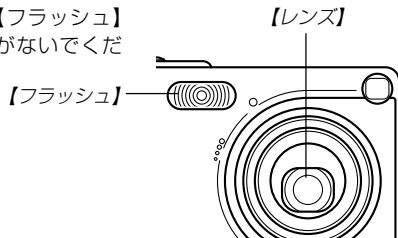
- 撮影できる範囲は、オートフォーカスモードでは約40cm～∞です（43ページ）。

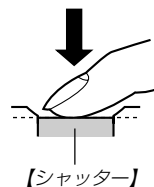
【フォーカスフレーム】

- 【ファインダー】から被写体を見て撮影することもできます（37ページ）。
- 【ファインダー】から被写体を見るときは【DISP】を押して、【液晶モニター】を消すことで、電力の消費を減らすことができます。

4. **【シャッター】を半押しし、ピントを合わせます。**

- 【シャッター】を半押しすると、オートフォーカス機能により自動的にピントが合い、シャッター速度と絞り値が表示されます。

【シャッター】

- ピントは【フォーカスフレーム】や緑の【動作確認用ランプ】の点灯のしかたで知ることができます。

状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	緑点滅	赤点灯

- 【レンズ】や【フラッシュ】を指でふさがないでください。

5. ピントが合っていることを確認して【シャッター】を全押しします。

- サイズ、画質によって保存できる枚数が異なります(127ページ)。
- 手ぶれを起さないために、【シャッター】は静かに押してください。

撮影時のご注意

- 【動作確認用ランプ】が緑色に点滅している間に【電池ブタ】を開けたり、カメラをUSBクレードルにセットすることは、絶対にお止めください。今撮影した内容が記録されないばかりでなく、撮影済みの内容が破壊されたり、カメラが正常に動作しなくなるおそれがあります。
- メモリーカードに記録中は、メモリーカードを抜かないでください。
- 蛍光灯照明の室内で撮影する場合、本機は蛍光灯のフリッカー（人の目では感じられない、ごく微妙なちらつき）を感知してしまい、撮影するタイミングによって、微妙に撮影画像の明るさや色合いが変わる場合があります。
- ISO感度が“オート”の場合（59ページ）被写体の明るさに応じて感度が自動的に変化します。被写体が暗いと画像にノイズがのる場合があります。
- ISO感度が“オート”の場合（59ページ）被写体が暗いときは感度を上げてシャッタースピードを速くなるようにしていますが、フラッシュの発光方法（39ページ）が（発光禁止）のときには手ぶれに注意してください。
- 不要な光がレンズに当たる場合は、手で遮光してから撮影してください。

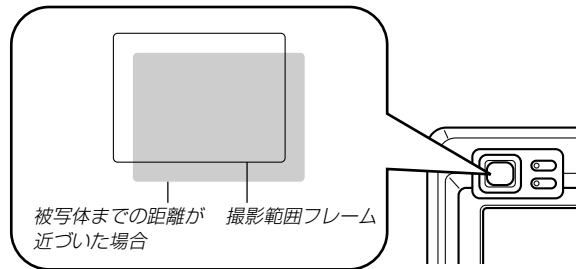
オートフォーカスのご注意

- 次のような被写体に対しては、ピントが合わないことがあります。
  - 階調の無い壁などコントラストが少ない被写体
  - 強い逆光のもとにある被写体
  - 光沢のある金属など明るく反射している被写体
  - ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
  - カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
  - 暗い場所にある被写体
  - 手ぶれをしているとき
  - 動きの速い被写体
- 緑の【動作確認用ランプ】が点灯していたり、【フォーカスフレーム】が緑で表示されていてもピントが正しく合わない場合があります。
- ピントが合わない場合は、フォーカスロック（46ページ）やマニュアルフォーカス（45ページ）をご利用ください。

撮影時の画面のご注意

- 撮影時、【液晶モニター】に表示される被写体の映像は、フレーム確認のための簡易画像です。撮影した内容は、選択した画質で記録されており、出力画素数は確保されています。メモリーには精細な画像で記録されています。
- 被写体の明るさにより、撮影時の【液晶モニター】の表示速度が遅くなったり、ノイズが出る場合があります。

ファインダーを使って撮影する

電池の消耗をおさえるために【液晶モニター】をオフ（20ページ）にし、【ファインダー】を使って撮影することができます。

重要!

- 撮影範囲フレームは約1m以上離れた被写体を撮影した場合の範囲を表します。被写体の距離が近い場合、視差の関係で実際に写る範囲が異なります。
- マクロモードやマニュアルフォーカスモードにすると、自動的に【液晶モニター】がオンになりますので、【液晶モニター】をファインダーとして使用してください。【液晶モニター】は視差の問題がないため、記録される画像が正しく表示されます。

ズームを使って撮影する

本機のズームには、光学ズームとデジタルズームの2種類があります。

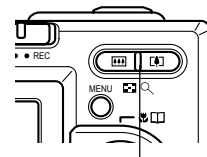
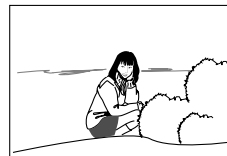
光学ズーム

光学ズーム機能により、レンズの焦点距離を変えて撮影することができます。ズームの倍率は次の通りです。

倍率：1～3倍

1. **RECモードにします。**

2. **【ズームボタン】を押して、ズームの倍率を変えます。**

(広角)：広角になります。
(望遠)：望遠になります。

広角

望遠

3.【シャッター】を押して撮影します。

参考
- 光学ズームの倍率により、レンズの絞りの値も変わります。
- 望遠で撮影するときは、手ぶれ防止のため三脚の使用をおすすめします。

デジタルズーム

デジタルズーム機能により、光学ズームが最も望遠になった(3倍)状態から、さらに画面の中央を拡大して撮影することができます。デジタルズームを使ったときのズームの倍率は次の通りです。

倍率:3〜12倍(光学ズーム併用)

1. RECモードにして【MENU】を押します。

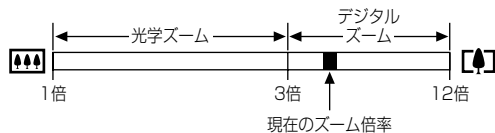
2.【◀】【▶】で"撮影設定"タブを選びます。

3.【▲】【▼】で"デジタルズーム"を選び、【▶】を押します。

4. "入"を選び、【SET】を押します。

- "切"を選ぶと、デジタルズームは働きません。

5.【ズームボタン】の[望遠マーク](望遠)側を押して、ズームの倍率を変えます。

- 【ズームボタン】を操作して光学ズームが最も望遠になると、いったんズーム動作は停止します。その後、【ズームボタン】の[望遠マーク](望遠)側を押すと、デジタルズームに切り替わります。
- 【液晶モニター】にズームバーが表示されます。この表示で現在のおおよその倍率が分かります。

6.【シャッター】を押して撮影します。

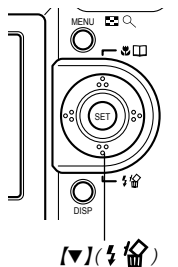
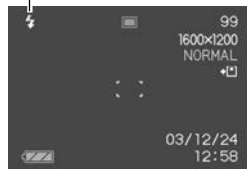
重要!
- 【液晶モニター】の表示を消している場合は、デジタルズームを使って撮影することはできません(20ページ)。
- デジタルズームを使って撮影すると画像が粗くなります。

フラッシュを使って撮影する

撮影条件に合わせてフラッシュの発光方法を切り替えることができます。

1. RECモードにします。

2. 【▼】( )を押してフラッシュの発光方法を選びます。

- 【▼】を押すたびに【液晶モニター】に次の順でフラッシュの発光方法が表示され、切り替わります。

表示なし(自動発光):露出に合わせて自動的に発光します。

(発光禁止):露出に関係なく発光しません。

(強制発光):露出に関係なく強制的に発光します。

(赤目軽減):フラッシュ撮影時に人の目が赤く写ることを軽減します。露出に合わせて自動的に発光します。

3. 撮影します。

重要!
- フラッシュ撮影時、フラッシュは数回発光します。最初にプリ発光(露出情報を得るための予備発光)し、最後にメイン発光(フラッシュ撮影するための発光)することにより、最適な発光量でフラッシュ撮影が行われます。メイン発光が終わるまで、カメラは動かさないでください。
- 赤の【動作確認用ランプ】が点滅中に【シャッター】を押しても、撮影できない場合があります。

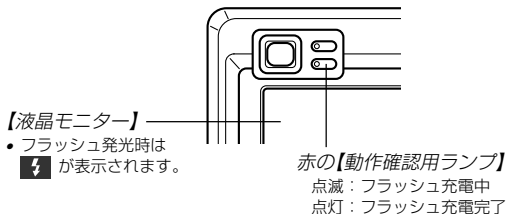
■赤目軽減機能について

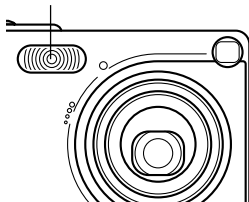
夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するために起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光(写す人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光)することにより、人の目が赤く写ることを軽減します。

※ 赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。

- 写される人が【フラッシュ】を注視していないと効果がありません。撮影する前に【フラッシュ】を見るように声をかけておいてください。
- 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

フラッシュの状態について

フラッシュの状態については【シャッター】を半押ししたときに、【液晶モニター】や赤の【動作確認用ランプ】で確認できます。

フラッシュ使用時のご注意

【フラッシュ】が指で隠れないようにしてください。隠れてしまうとフラッシュ本来の効果が得られなくなります。

- フラッシュ撮影時の被写体までの距離が、遠かったり、近かったりする場合は適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間は、そのときの使用条件(電池の状態や温度等)により異なります。
  数秒～10秒程度(フル充電の場合)
- ムービーモードの場合は、フラッシュは発光しません。このとき(発光禁止)が表示されます。
- 電池が消耗するとフラッシュの充電ができなくなることがあります。このとき(発光禁止)が点灯し、フラッシュが正常に発光せずに適正な露出が得られないことを示します。速やかに電池を充電してください。
- (赤目軽減)では露出に合わせて自動的に発光するため、明るい場所ではフラッシュは発光しません。
- フラッシュを使用した場合は、ホワイトバランスが固定されるため、外光や蛍光灯など他の光源があると色味が変わることがあります。

セルフタイマーを使って撮影する

【シャッター】を押してから約10秒または約2秒後に撮影することができます。また、3枚連続でセルフタイマー撮影する(トリプルセルフタイマー)こともできます。

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

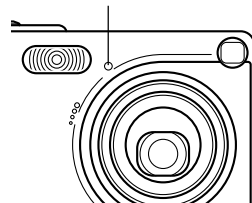
2. **【◀】【▶】で"撮影設定"タブを選びます。**

3. **【▲】【▼】で"セルフタイマー"を選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】でセルフタイマーの時間を選び、【SET】を押します。**

10秒 : 10秒後に撮影されます。
2秒 : 2秒後に撮影されます。
×3 : 10秒後に1枚、その後撮影準備完了の1秒後に1枚、さらに撮影準備完了の1秒後に1枚と、合計3枚撮影されます(トリプルセルフタイマー)。
切 : セルフタイマーは使用できません。

5. **撮影します。**

- 【セルフタイマーランプ】が点滅し、約10秒、または2秒後に撮影されます。
- カウントダウン中に【シャッター】を押すと、セルフタイマーを解除することができます。

参考
- シャッター速度が遅いときにセルフタイマーの2秒の設定を使用すると手ぶれ防止になります。
- トリプルセルフタイマーでは、次の撮影準備が終わると"1sec"と表示され、約1秒後に撮影されます。撮影準備完了までの時間は、画像の"サイズ"や"画質"と使用するメモリーまた、フラッシュの充電の有無によって異なります。

画像サイズと画質を変える

本機は撮影する内容に応じて、画像サイズと画質の切り替えができます。

画像サイズを変更する

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。

3. 【▲】【▼】で“サイズ”を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

2048×1536：2048×1536 pixelsで記録します。
1600×1200：1600×1200 pixelsで記録します。
1280× 960：1280× 960 pixelsで記録します。
640× 480： 640× 480 pixelsで記録します。

参考 • 大きくプリントするなど、画質を優先したい場合は“2048×1536”などのpixels数が大きな画像を選び、メールで画像データを送ったり、多くの画像を撮影するなど、容量を小さくしたい場合は“640×480”を選んでください。

画質を変更する

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。

3. 【▲】【▼】で“画質”を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

高精細 ：高画質で記録します。
標準 ：標準の画質で記録します。
エコノミー：低画質で記録します。

参考 • 画質が“高精細”→“標準”→“エコノミー”となるに従って、画像容量は小さくなります。画質を優先するときは“高精細”を、撮影枚数を優先するときは“エコノミー”を選んでください。

重要! • 撮影した画像によってファイルサイズが異なるため、実際の撮影可能枚数と画面上の表示枚数が一致しない場合があります(18、127ページ)。

撮影する（応用編）

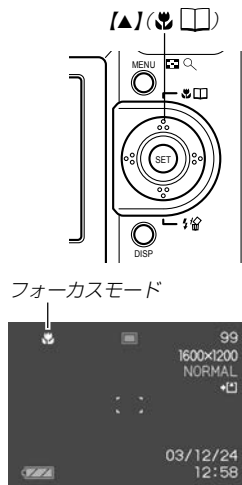
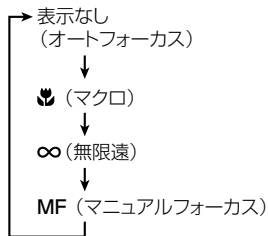
本機はさまざまな機能の切り替えにより、多彩な応用撮影ができます。

ピント合わせの方法を変える

ピント合わせの方法には、オートフォーカス、マクロ、無限遠、マニュアルフォーカスの4種類があります。これらをフォーカスモードといいます。

1. RECモードにします。

2. 【▲】（ ）を押します。

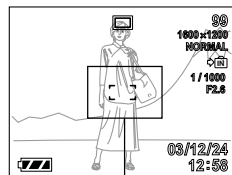
- 押すごとにフォーカスモードが切り替わります。

自動でピントを合わせる（オートフォーカス）

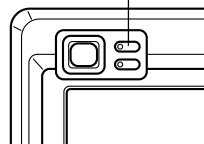
オートフォーカスでは自動的にピントを合わせることができます。シャッターを半押しすると、オートフォーカス機能が働き自動的にピント調整を始めます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

範囲：約40cm～∞

1. 【▲】（ ）を何回か押してフォーカスモード表示を消します。

2. ピントを合わせたい被写体を【フォーカスフレーム】の中にとらえて、【シャッター】を半押しします。

- 【動作確認用ランプ】と【フォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。

【フォーカスフレーム】

緑の【動作確認用ランプ】

状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	緑点滅	赤点灯

3. **【シャッター】を全押しして撮影します。**

近くを撮影する（マクロ）

マクロでは近距離で自動的にピントを合わせることができます。近くのものを撮影（接写）するときに使用します。シャッターを半押しすると、オートフォーカス機能が働き自動的にピント調整を始めます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

約6cm～50cm

1. **【▲】（ ）を何回か押して“ ”を表示させます。**

2. **撮影します。**

- ピントの合わせかた、撮影のしかたはオートフォーカスモードと同じです。
- 【動作確認用ランプ】／【フォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。点灯のしかたはオートフォーカスモードと同じです。

重要! • マクロでの光学ズームは1～1.8倍の範囲で使用できます。

遠くを撮影する（無限遠）

無限遠では∞（無限遠）にピントが固定されます。景色など遠景を撮影するときに使用します。

1. **【▲】（ ）を何回か押して"∞"を表示させます。**

2. **撮影します。**

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

マニュアルフォーカスでは手動でピントを合わせることができます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

光学ズーム倍率	範囲
1倍	約6cm～∞
3倍	約18cm～∞

1. **【▲】（ ）を何回か押して"MF"を表示させます。**

- 手順2で拡大表示される範囲が枠で囲まれます。

枠

2. **【液晶モニター】で確認しながら、【◀】【▶】によりピントを合わせます。**

【◀】：遠い側にピントを合わせる

【▶】：近い側にピントを合わせる

- 【液晶モニター】にはマニュアルフォーカスの位置が表示され、おおよそのピントの位置が確認できます。
- ピントを合わせている間は表示が拡大表示になり、ピントの確認がしやすくなります。

マニュアルフォーカスの位置

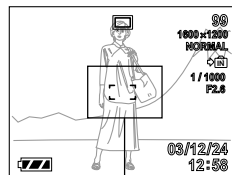
3. **【シャッター】を押して撮影します。**

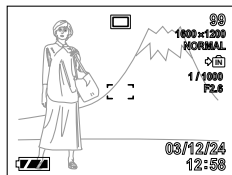
重要! • マニュアルフォーカス時はキーカスタマイズ(60ページ)により設定されている【◀】【▶】を押しての動作は無効になり、ピント合わせの動作が優先されます。

フォーカスロック

撮影したい構図で【フォーカスフレーム】に入らない被写体にピントを合わせる場合は、フォーカスロックを使います。フォーカスロックはオートフォーカスモード、マクロモード(🌷)で使用できます。

1. **ピントを合わせたい被写体を【液晶モニター】で見ながら、【シャッター】を半押しします。**

- ピントの合わせかた、撮影のしかたはオートフォーカスモードと同じです。
- 【動作確認用ランプ】／【フォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。点灯のしかたはオートフォーカスモードと同じです。

【フォーカスフレーム】

2. 【シャッター】を半押ししたまま、撮影したい構図を決めます。

3. 【シャッター】を全押しして撮影します。

参考
- フォーカスロックと同時に露出(AE)もロックされます。

露出を補正する(EVシフト)

本機は撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を下記の値に手動で補正することができます。逆光での撮影、間接照明の室内、背景が暗い場合の撮影などに利用すると、より良好な画像が得られます。

露出補正値：−2.0EV〜+2.0EV
補正単位　：1/3EV

1. RECモードにして【MENU】を押します。

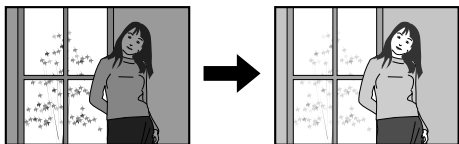
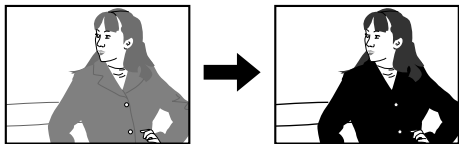
2. "撮影設定"タブ→"EVシフト"と選び、【▶】を押します。

露出補正表示

3. **【▲】【▼】で露出補正値を選び、【SET】を押します。**

- これで露出補正値が設定されました。

露出補正表示

【▲】: ＋方向に補正されます。白い物の撮影や逆光での撮影のときに押します。

【▼】: －方向に補正されます。黒い物の撮影や晴天の野外などのときに押します。

- 露出補正値をもとに戻したいときは、反対方向に露出補正して“0.0”に合わせてください。

4. **撮影します。**

重要!
- 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。

- EVシフトを行うと、測光方式が自動的に中央重点測光(中央部を重点的に測光します)に切り替わります。EVシフトを“0.0”に戻すとマルチパターン測光(画面全体を分割し、それぞれのエリアの測光データを元に露出を決めます)に戻ります。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】で露出値が補正できるように切り替えられます(60ページ)。

ホワイトバランスを変える

被写体は、太陽光や電球の光など光源の波長によって色味が異なっています。ホワイトバランスとは、被写体を自然な色合いで撮影できるように白を基準に色味を調整することです。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"ホワイトバランス"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

オート　：自動的にホワイトバランスを調整します。
(太陽光)：屋外での撮影時
(日陰)　：日陰で青みがかるとき
(電球)　：電球下で赤みがかるとき
(蛍光灯)：蛍光灯下で緑がかるとき
マニュアル　：現在の光源に合わせて手動で設定します。詳しくは「マニュアルホワイトバランスの設定」(50ページ)を参照してください。

参考

- "マニュアル"を選ぶと、前回マニュアルホワイトバランスを設定した際の値に設定されます。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】でホワイトバランスが変更できるように切り替えられます(60ページ)。

マニュアルホワイトバランスの設定

ホワイトバランスの"オート"では光源によって自動調整の処理に時間がかかったり、調整できる範囲(色温度)に限界があります。マニュアルホワイトバランスを使うと、さまざまな光源下で適正な色に調整することができます。マニュアルホワイトバランスの設定は、白い紙などを画面に一杯に写した状態で行ってください。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"ホワイトバランス"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で"マニュアル"を選びます。

- 【液晶モニター】には、前回調整したバランスで被写体が表示されます。

4. 画面全体に白い紙などを写した状態で【シャッター】を押します。

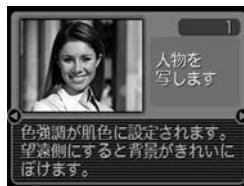
- "完了"と表示されたらホワイトバランスの調整は完了です。
- 暗い所や色の濃いものでホワイトバランスを調整すると時間がかかります。

5. 【SET】を押します。

- ホワイトバランスを決定し、撮影ができる画面に戻ります。

さまざまなシーンを選んで撮影する(ベストショットモード)

21種類のシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、自動的にそのシーンに最適な設定になります。

■シーンのサンプル画像例

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"撮影モード"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で"BS"(ベストショット)を選び、【SET】を押します。

- ベストショットモードになり、シーンのサンプル画像が表示されます。

4. 【◀】【▶】で撮影したいシーンを選び、【SET】を押します。

5. 撮影します。

重要!
- No.4のシーンについては「カップリングショット」(53ページ)、No.5のシーンについては「プリショット」(54ページ)をご覧ください。
- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。イメージ画像です。
- 被写体の条件によっては、充分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- シーンを選んだ後から【SET】を押すことにより、シーンを選び直すことができます。

撮影したいシーンを登録する（カスタム登録）

今まで撮影した画像の設定内容をベストショットモードに読み込んで、呼び出すことができます。呼び出した画像の設定内容と同じ設定で撮影することができます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. “撮影設定”タブ→“撮影モード”と選び、【▶】を押します。

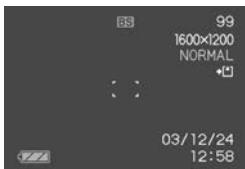
3. 【▲】【▼】で“BS”（ベストショット）を選び、【SET】を押します。
- シーンのサンプル画像が表示されます。

4. 【◀】【▶】を押して“好きな画像を登録します”を表示させます。

5. 【SET】を押します。

6.【◀】【▶】を押して読み込む画像を選びます。

7.【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押します。

- 登録が完了します。
- 撮影できる状態になります。以降、50ページと同じ操作により、この設定を選んで撮影することができます。

重要!

- デジタルカメラでは、本機内蔵のシーンのあとに「マイベストショット（カスタム登録したシーン）」の順番でシーンが登録されます。
- 内蔵メモリーをフォーマット（88ページ）すると、カスタム登録したベストショットモードのシーンファイルは消えてしまいますので、その場合は必要に応じてカスタム登録し直してください。

参考

- 登録される設定内容は下記の通りです。
  フォーカスモード、EVシフト、ホワイトバランス、フラッシュモード、ISO感度
- 本機で撮影された画像からのみ設定内容を読み取ることができます。
- 登録可能件数は最大999件となります。
- 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させせることにより、確認できます。
- カスタム登録したシーンのファイル名は「UEXZ3nnn.jpe（n=0～9）」となります。
- カスタム登録したシーンを消去したい場合は、ベストショットモードでシーンを選ぶときに、カスタム登録したシーンを表示させ、【▼】（⚡🗑）を押して削除するか、パソコンを使って内蔵メモリー内の「Scene」フォルダ内から消去したいシーンのファイルを削除してください（103ページ）。

二人で記念撮影をする(カップリングショット)

一画面を2つに分けて2回撮影し、その後自動合成して1枚の画像にする機能です。他の人に撮影を頼むことができないときでも、全員揃って記念撮影できます。この機能はベストショットモード(50ページ)の中にあります。

• 最初の撮影
撮影者以外を撮影する。

• 最終的な撮影
背景の重なり具合を確認しながら撮影者のみを撮影する。

• 合成

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"撮影モード"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で"BS"(ベストショット)を選び、【SET】を押します。

4. 【◀】【▶】で"カップリングショット"のシーンを選び、【SET】を押します。

5. **最初に【液晶モニター】で【フォーカスフレーム】を左側部分の被写体に合わせて撮影します。**

- この撮影で下記の情報が固定されます。
  フォーカス、露出、
  ホワイトバランス、
  ズーム、フラッシュ

【フォーカスフレーム】

6. 次に、【液晶モニター】上で半透明で表示されている左側部分と、現在の背景を正しく重なるようにフレームを合わせ、右側部分を撮影します。

- 【MENU】を押すと、この撮影をキャンセルし、操作5に戻ることができます。

半透明の画像

好みの構図で記念撮影をする(プリショット)

プリショット機能は人に撮影を依頼するときに便利な機能です。この機能では一度の撮影で2回の撮影を行います。1回目の撮影で撮影画像を半透明の状態で【液晶モニター】上に表示し、2回目では表示されている半透明の画像を目安に最終的な撮影を行います。2回目に撮影した画像が記録されます。この機能はベストショットモード(50ページ)の中にあります。

- 好みの構図を自分で撮影

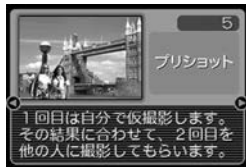
- 構図に合わせて他の人に撮影してもらう

- 2回目のみの画像が記録される

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"撮影モード"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で"BS"(ベストショット)を選び、【SET】を押します。

4. 【◀】【▶】で"プリショット"のシーンを選び、【SET】を押します。

5. 最初に仮撮影を行います。

- この操作で撮影した画像は操作6で半透明で表示されますが、最終的にはカメラに保存されません。
- この撮影で下記の情報が固定されます。

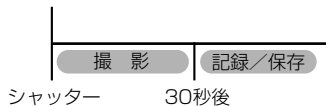
 フォーカス、露出、ホワイトバランス、ズーム、フラッシュ

6. 次に、【液晶モニター】上で半透明で表示されている背景と、現在の背景を正しく重なるようにフレームを合わせて撮影します。

- この操作で撮影した画像がカメラに保存されます。
- 【MENU】を押すと、この撮影をキャンセルし、操作5に戻ることができます。

半透明の画像

動画を撮影する(ムービーモード)

一度に最大30秒まで音声つき動画を撮影することができます。

●ファイル形式：AVI形式
AVI形式は、Open DML グループが提唱したMotion JPEGフォーマットに準拠しています。

●画像サイズ：320×240pixels

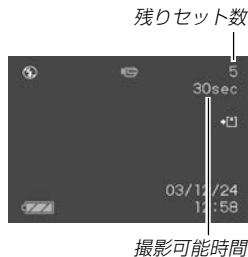
●動画ファイルサイズ：約130KB/秒

●撮影可能なムービーの時間：
- 一度に撮影可能な最長時間：30秒
- 撮影可能なトータル時間：内蔵メモリーで最長約1分20秒、64MBのSDメモリーカードで最長約8分20秒

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. "撮影設定"タブ→"撮影モード"と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で"(ムービー)"を選び、【SET】を押します。

- 「残りセット数」は、30秒の動画をあと何回撮影できるかを示しています。

4. 撮影する被写体にカメラを向け、【シャッター】を押します。

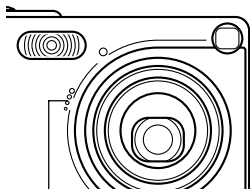
- 30秒間、動画撮影が続きます。
- 動画撮影中は【液晶モニター】に"残り撮影時間"を表示します。
- 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。【シャッター】を押す前ですと、光学ズームは使用できます。
- 動画撮影を30秒以内で終了させたいときは、もう一度【シャッター】を押してください。

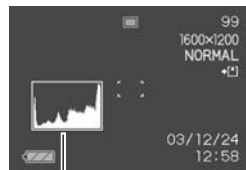
5. 動画撮影が終了したら、動画ファイルがカメラのメモリーに保存されます。

- 動画ファイルの保存を中止したいときは、保存中に【▼】を押した後、“消去”を選び、【SET】を押してください。

重要!
- フラッシュは発光しません。
- 本機では音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
  - 指などで【マイク】をふさがないようにご注意ください。
  - 録音の対象がカメラから遠くに離れると、きれいに録音されません。
  - 撮影中にボタン操作をすると、操作音が入ることがあります。

【マイク】

  - 音声はモノラルで録音されます。
  - フォーカスモード(43ページ)をオートフォーカスモードかマクロモード(🌷)にすると、自動的にピント調整を行います。その際に「カタカタ」という動作音が入ります。ピント調整音が気になる場合は、あらかじめマニュアルフォーカスモード(MF)にてピントを調整したうえ、撮影することをおすすめします。
  - フォーカスモードをマニュアルフォーカスモード(MF)か無限遠モード(∞)にすると「カタカタ」という動作音は入りません。ただし、マニュアルフォーカスモードでは撮影中のピント調整ができなくなりますので、撮影前にピントを合わせてください。

ヒストグラムを活用する

【DISP】を押して【液晶モニター】上にヒストグラムを表示させることにより、露出をチェックしながら撮影することができます(20ページ)。再生モードでは撮影された画像のヒストグラムを見ることができます。

ヒストグラム

ヒストグラム(輝度成分分布表)とは、画像の明るさのレベルをピクセル数によりグラフ化したものです。縦軸がピクセル数、横軸が明るさを表します。ヒストグラムを見ると、補正するために充分な画像のディテールが画像のシャドウ(左側)、中間調(中央部分)、ハイライト(右側)に含まれているかどうかを確認することができます。もしもヒストグラムが片寄っていた場合は、EVシフト(露出補正)を行うと、ヒストグラムを左右に移動させることができます。なるべくグラフが中央に寄るように補正をすることによって、適正露出に近づけることができます。

- ヒストグラムが左の方に寄っている場合は、暗いピクセルが多いことを示しています。
  全体的に暗い画像はこのようなヒストグラムになります。また、あまり左に寄り過ぎていると、黒つぶれを起こしている可能性もあります。

- ヒストグラムが右の方に寄っている場合は、明るいピクセルが多いことを示しています。
  全体的に明るい画像はこのようなヒストグラムになります。また、あまり右に寄り過ぎていると、白飛びを起こしている可能性もあります。

- ヒストグラムが中央に寄っている場合、明るいピクセルから暗いピクセルまで適度に分布していることを示しています。
  全体的に適度な明るさの画像はこのようなヒストグラムになります。

重要!

- 前記のヒストグラムはあくまでも例であり、被写体によってはヒストグラムの形が例のようにならない場合もあります。
- 撮影したい画像を意図的に露出オーバーやアンダーにする場合もあるので、必ずしも中央に寄ったヒストグラムが適正となる訳ではありません。
- 露出補正には限界がありますので、調整しきれない場合があります。
- フラッシュ撮影による撮影など、撮影したときの状況によっては、ヒストグラムによりチェックした露出とは異なる露出で撮影される場合があります。
- カップリングショット撮影時(53ページ)は、ヒストグラムは表示されません。

各種機能を設定する

ISO感度を変える

ISO感度が変更できます。使用目的に応じてISO感度を設定してください。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“ISO 感度”と選び、【▶】を押します。
3. 設定内容を選び【SET】を押します。

オート　：撮影条件により自動調整します。
ISO 50　：ISO 50相当
ISO 100：ISO 100相当
ISO 200：ISO 200相当

重要!
- ISO感度を上げると画像のノイズが増加します。使用目的に応じてISO感度を設定してください。
- ISO感度を上げてフラッシュ撮影すると、近くの被写体の明るさが、適正にならない場合があります。

撮影した画像を確認する(撮影レビュー)

撮影した直後に【液晶モニター】で撮影した画像を確認することができます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“撮影レビュー”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で設定項目を選び、【SET】を押します。

入：撮影直後に【液晶モニター】に撮影した画像が約1秒間表示されます。
切：撮影した画像は表示されません。

左右キーに機能を割り当てる(キーカスタマイズ)

【◀】【▶】に、5つの中のどれか1つの機能の操作に割り当てることにより、操作しやすくすることができます。

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **"撮影設定"タブ→"左右キー設定"と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。**

- 【◀】【▶】で設定した機能が操作できるようになります。

撮影モード　：撮影モード(静止画／ベストショット／ムービー)が変更できます(117ページ)。
EVシフト　：露出値(EV値)が補正できます(47ページ)。
ホワイトバランス：ホワイトバランスが変更できます(49ページ)。
ISO感度　：ISO感度の変更ができます(59ページ)。
セルフタイマー：セルフタイマーの設定ができます(41ページ)。
切　：【◀】【▶】に操作を割り当てません。

参考 • 初期設定は"撮影モード"の操作となります。

各種設定を記憶させる(モードメモリ)

モードメモリとは、電源を切ったときでも直前の状態を記憶しておく機能です。電源の入／切で毎回設定をし直す手間がはぶけます。

●モードメモリで設定できる機能

撮影モード、フラッシュ、フォーカス方式、ホワイトバランス、ISO感度、デジタルズーム、MF位置

1. **RECモードにして【MENU】を押します。**

2. **"モードメモリ"タブ→"設定したい機能"と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。**

入：電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。
切：電源を切ったときに初期設定に戻ります。

機　能	入	切
撮影モード	最後のモード	静止画
フラッシュ		オート
フォーカス方式		オート
ホワイトバランス		オート
ISO感度		オート
デジタルズーム		入
MF位置		MFに切り替える前の位置

重要!
- ベストショットモードでは、シーンの選択をしたり、【モードスイッチ】を切り替えたり、電源のオン/オフを行うと、モードメモリが入/切のどちらに設定されていても、撮影設定(フラッシュ、ホワイトバランス、ISO感度)は各シーンの初期設定値となります。
- ムービーモードでは、モードメモリの入/切の設定に関わらず、フラッシュは常に発光禁止に設定されます。

各種設定をリセットする

本機の設定内容を初期値に戻すことができます。初期値については「メニュー一覧表」(117ページ)をご覧ください。

1. RECモードまたはPLAYモードで【MENU】を押します。

2. "設定"タブ→"リセット"を選び【▶】を押します。

3. "リセット"を選び【SET】を押します。

- リセットしない場合は"キャンセル"を選びます。

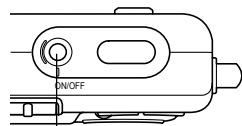
再生する

本機は【液晶モニター】を備えていますので、記録されているファイルを本機だけで確認することができます。

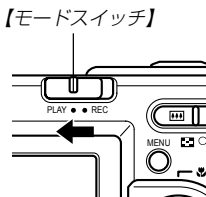
基本的な再生のしかた

記録されているファイルを順次送ったり戻したりしながら見ることができます。

1. 【電源ボタン】を押して、電源を入れます。

- 【液晶モニター】に画像またはメッセージが表示されます。

【電源ボタン】

2. 【モードスイッチ】を"PLAY"に合わせます。

- PLAYモードになり、再生できる状態になります。

【モードスイッチ】
3. 【◀】【▶】でファイルを見ていきます。

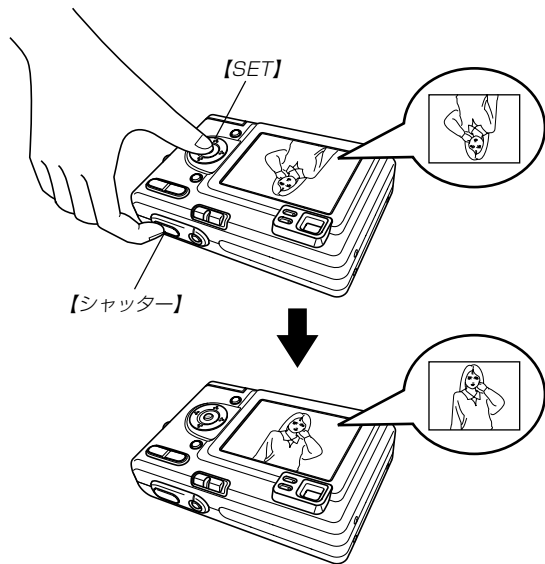
【▶】を押す：進みます。

【◀】を押す：戻ります。

参考

- 【◀】【▶】を押し続けると、ファイルは早送りされます。
- 初めに表示される画像は簡易画像のため、粗い表示になっていますが、すぐ後に精細な画像が表示されます。ただし、他のデジタルカメラからコピーした画像は、この限りではありません。

反転表示させる

表示している画像を180°反転させることができます。画像を他人に見せるときなどに便利です。

1. **PLAYモードにして【◀】【▶】で画像を表示させせます。**

2. **【シャッター】と【SET】を同時に押します。**

- 画像が180°反転します。このときは情報表示やヒストグラム等の表示は消え、画像のみの表示となります。
- 【◀】【▶】で画像の送り、戻しができます。

3. **【▲】【▼】【◀】【▶】以外のボタンを押すと、もとの状態に戻ります。**

重要!
- 反転表示中は動画は表示されません。
- 拡大表示、9画面表示、カレンダー表示、動画再生中は反転表示はできません。

画像を拡大して表示する

撮影した画像を4倍まで拡大して表示させることができます。

1. **PLAYモードにして、【◀】【▶】で拡大したい画像を表示させます。**

2. **【ズームボタン】の“🔍”側を押して拡大します。**

- 【液晶モニター】に現在の倍率が表示されます。
- 【DISP】を押すと倍率などの表示のオン／オフができます。

拡大倍率

3. **【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大した画像を上下左右にスクロールすることができます。**

4. **【MENU】を押すと、画像は元の大きさに戻ります。**

重要!
- 動画は拡大表示できません。
- 画像のサイズにより、4倍までの拡大表示ができない画像があります。

画像サイズを変える（リサイズ）

撮影した静止画像のサイズを、次の2種類のサイズに変えることができます。

1280×960pixelsのSXGAサイズ
640×480pixelsのVGAサイズ

- VGAサイズの画像は、メールに添付する画像やホームページに貼り付ける画像に最適です。

1. **PLAYモードにして【MENU】を押します。**

2. **“再生機能”タブ→“リサイズ”と選び、【▶】を押します。**

3. **【◀】【▶】でサイズを変えたい画像を表示させます。**

4. **【▲】【▼】でリサイズ内容を選び、【SET】を押します。**

1280×960	：1280×960pixelsのSXGAサイズに変えます。
640×480	：640×480pixelsのVGAサイズに変えます。
キャンセル	：リサイズを中止します。

重要!
- リサイズした画像は、リサイズする前の画像とは別に最新ファイルとして保存されます。
- 画像サイズが640×480pixels以下の画像はリサイズできません。
- このカメラで撮影した画像以外の画像は、リサイズできません。
- “このファイルではこの機能は使用できません”と表示された場合は、リサイズできません。
- リサイズした画像を保存できるだけメモリー容量が残っていない場合は、リサイズできません。
- リサイズ画像をカメラで表示した場合は、リサイズを実行した日時が表示されますが、EXIF情報※の日付情報は撮影時のまま保持されています。

  ※ EXIF情報には撮影時の状況が記録されています（110ページ）。

画像の一部を切り抜く（トリミング）

拡大した画像から必要な箇所を切り抜いて、メールに添付する画像やホームページに貼り付ける画像などの構図を整えることができます。

1. PLAYモードにして、【◀】【▶】でサイズを変えたい画像を表示させせます。

2. 【MENU】を押します。

3. “再生機能”タブ→“トリミング”と選び、【▶】を押します。

- 画面に画像を切り抜くための枠が表示されます。

4. 【ズームボタン】を押して、枠の拡大／縮小をします。

- 表示されている画像のサイズによって、トリミングできる枠の大きさが変わります。

5. 【▲】【▼】【◀】【▶】で切り抜きたい部分を枠で囲みます。

6. 【SET】を押します。

- トリミングを中止する場合は【MENU】を押します。

重要!
- トリミングした画像は最新ファイルとして保存されます。
- 画像サイズが小さいほどトリミングできる枠の大きさが限定されます。
- 画像サイズが640×480pixelsの画像では、枠は拡大／縮小できません。
- トリミングしても、トリミングする前の画像は残っています。
- ムービーモードで撮影した画像はトリミングできません。
  このカメラで撮影した画像以外の画像は、トリミングできません。
- “このファイルではこの機能は使用できません”と表示された場合は、トリミングできません。
- トリミングした画像を保存できるメモリー容量が残っていない場合は、トリミングできません。
- トリミング画像をカメラで表示した場合は、トリミングを実行した日時が表示されますが、EXIF情報※の日付情報は撮影時のまま保持されています。
  ※ EXIF情報には撮影時の状況が記録されています（110ページ）。

動画を再生する

ムービーモードで撮影した動画を再生することができます。

1. PLAYモードにして、【◀】【▶】で再生したい動画を表示させます。

動画アイコン

2. 【SET】を押します。

- 動画が再生されます。
- 動画再生中に、次のような操作ができます。

早戻し／早送りする .... 【◀】【▶】を押し続ける
再生と一時停止を切り替える ...... 【SET】を押す
一時停止中にコマ送りする .... 【◀】【▶】を押す
再生を中断する .... 【MENU】を押す

重要!
- 動画を連続して再生することはできません。再度再生したいときは、もう一度、上の操作を行ってください。
- 動画の音声はカメラで再生することはできません。音声つきで再生したいときは、動画ファイルをパソコンで再生してください(93ページ)。

1つの画面に9つの画像を表示する

撮影した内容を9つまで同時に一覧表示させることができます。

1. **PLAYモードにします。**

2. **【ズームボタン】の“”側を押します。**

- 9つの画像が表示され、最初に表示されていた画像は、枠が付いた状態で中央に表示されます。
- 画像の総数が9枚以下の場合は、左上から順に画像が表示されます。枠は1枚目の画像に付きます。
- 【◀】または【▶】を押して、枠が画面の左端、または右端まで行くと、次の9枚を表示します。
- 【ズームボタン】の“”側を2回押すとカレンダー表示(68ページ)になります。

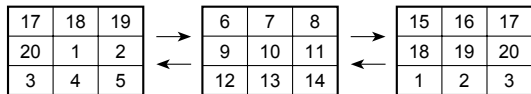
例：画像の総数が20枚で、1番目の画像を最初に表示していた場合

17	18	19
20	1	2
3	4	5

→ ←

6	7	8
9	10	11
12	13	14

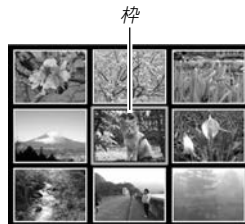
→ ←

15	16	17
18	19	20
1	2	3

3. **【▲】【▼】【◀】【▶】で画像を見ていきます。**

4. **【▲】【▼】【◀】【▶】以外のボタンを押すと9画面表示は終了します。**

目当ての画像を素早く表示する

1. **9画面表示に切り替えます。**

2. **【▲】【▼】【◀】【▶】で目当ての画像に枠を移動します。**

3. **【▲】【▼】【◀】【▶】以外のボタンを押します。**

- 目当ての画像が1枚で表示されます。

カレンダー表示をする

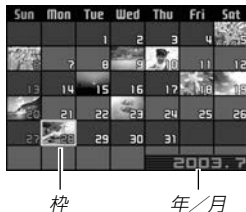
1ヶ月分のカレンダー表示の日付上に、その日に撮影した最初の画像を表示させることができ、見たい画像を素早く探すことができます。

1. **PLAYモードにして【ズームボタン】の“▦”側を2回押します。**

- 【MENU】を押してから、“再生機能”タブ→“カレンダー表示”と選び、【▶】を押してもカレンダー表示になります。

2. **【▲】【▼】【◀】【▶】で目当ての画像に枠を移動します。**

枠　年／月

- 年／月の表示は”表示スタイル”の設定(86ページ)に従って表示されます。
- 各日付上にその日に撮影した最初の画像が表示されます。
- 枠が上端にあるとき【▲】を押すと前の月の画面に移ります。
- 枠が下端にあるとき【▼】を押すと次の月の画面に移ります。
- カレンダー表示を終えるには【MENU】または【ズームボタン】の“🔍”側を押します。
- このカメラで表示できないデータの場合は[?]が表示されます。

3. **見たい画像に枠を移動させたら、【SET】を押します。**

- その日に撮影した最初の画像が表示されます。

画像を自動的にページめくりさせる(スライドショー)

撮影した内容を自動的に次々とページめくりさせる機能(スライドショー)です。ページめくりの間隔を設定することもできます。

 → →

1. **PLAYモードにして【MENU】を押します。**

2. **“再生機能”タブ→“スライドショー”と選び、【▶】を押します。**

3. **各設定項目を設定します。各設定方法については、下記をご覧ください。**

表示画像............「表示画像の設定」(69ページ)
時間....................「時間の設定」(70ページ)
間隔....................「間隔の設定」(70ページ)

4. **“開始”を選び【SET】を押します。**

5. **何かキーを押すとスライドショーが終了します。**

- “時間”で設定した時間が経過すると自動的に終了します。

重要!
- 画面の切り替り中はボタン操作が効かなくなります。画面が静止している時にボタン操作をしてください。ボタンが効かない場合はしばらくボタンを押し続けてください。
- パソコンからコピーした画像や、他のデジタルカメラの画像では、設定した間隔より長くなる場合があります。

表示画像の設定

1. **【▲】【▼】で“表示画像”を選び【▶】を押します。**

2. **【▲】【▼】で表示内容を選び【SET】を押します。**

全画像　　：メモリー内にある全ての画像を表示します。

1枚画像　：画像を一枚のみ選んで表示します。

お気に入り：お気に入りフォルダ(103ページ)にある画像を表示します。

3. **“開始”を選び【SET】を押します。**

- スライドショーが始まります。

■ 1枚画像について

“1枚画像”では一枚のみ画像を選んで表示することができます。フォトスタンド機能(71ページ)で画像を一枚のみ表示させたい場合に使用します。
“1枚画像”は下記のように選びます。

1. **“1枚画像”を選び【▶】を押します。**

2. **【◀】【▶】で目的の画像を表示させます。**

3. **【SET】を押すと、設定を確定してメニュー画面に戻ります。**

- 【MENU】を押すと設定をキャンセルしてメニュー画面に戻ります。

時間の設定

1. **【▲】【▼】で“時間”を選びます。**

2. **【◀】【▶】で再生したい時間を選び【SET】を押します。**

- 時間は1～60分の間で指定できます。

3. **“開始”を選び【SET】を押します。**

- スライドショーが始まります。

間隔の設定

1. **【▲】【▼】で“間隔”を選びます。**

2. **【◀】【▶】でスライドショーの間隔を選び【SET】を押します。**

- 間隔は“最速”と1～30秒の間で指定できます。
- 動画の場合は、指定した間隔に関わらずに1回再生します。ただし、“最速”では、先頭のコマのみを再生します。

3. **“開始”を選び【SET】を押します。**

- スライドショーが始まります。

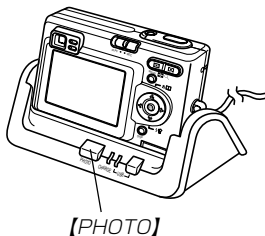
USBクレードルにセットしたままスライドショーさせる（フォトスタンド機能）

カメラをUSBクレードルにセットしたままスライドショーができます。電池の消耗を気にせずに、フォトスタンドのように画像を見ることができます。フォトスタンド機能はスライドショーの設定にしたがって表示します。あらかじめスライドショーの設定を行ってください（68ページ）。

1. **カメラをUSBクレードルにセットします。**

- カメラの電源を入れたまま、USBクレードルの上にセットしないでください。

2. **USBクレードルの【PHOTO】を押します。**

- スライドショーが始まります。
- 【MENU】を押すと、スライドショーの各設定項目が設定できます。スライドショーを再開するには、メニュー表示中に【MENU】を押すか、“開始”を選んで【SET】を押してください。

【PHOTO】

3. **【PHOTO】を押すとスライドショーが終了します。**

重要! • スライドショー中は電池の充電ができません。充電する場合はスライドショーを終了してください。

回転表示させる

画像の回転情報（向き）を画像ファイルに書き込むことができます。再生時には回転情報をもとに画像を表示することができます。スライドショーでの表示のみに有効です。縦置きで撮影した画像や、回転させたい画像に使用すると便利です。

1. **PLAYモードにして【MENU】を押します。**

2. **“再生機能”タブ→“回転表示”と選び、【▶】を押します。**

3. **【◀】【▶】で回転させたい画像を表示させます。**

4. **“回転”を選び【SET】を押します。**

- “回転”を選んだ状態で【SET】を押すたびに90°ごとに右まわりに回転します。

5. **【MENU】を押して設定を終了します。**

重要! • メモリープロテクトをかけたファイルは、回転することはできません。メモリープロテクトを解除してから操作してください。

消去する

ファイルを消去する方法には次の2つの方法があります。

1ファイル ：ファイルを1ファイルずつ消去する。
全ファイル：すべてのファイルを消去する。

重要!
- 一度消去してしまった記録内容は、二度と元に戻すことはできません。消去の操作を行う際は、本当に不要なファイルかどうかをよく確かめてから行ってください。特に全ファイル消去の操作では、記録したすべての内容を一度に消去してしまいますので、内容をよく確かめてから操作してください。
- メモリープロテクトのかかったファイルは消去できません。メモリープロテクトを解除してから操作してください(75ページ)。
- すべてのファイルがメモリープロテクト(75ページ)されている状態では、消去は実行できません。

1ファイルずつ消去する

表示されているファイルを1ファイルずつ消去することができます。

1. PLAYモードにして【▼】(⚡🗑)を押します。

2. 【◀】【▶】で消去したいファイルを表示させせます。

3. 【▲】【▼】で“消去”を選びます。

- 消去を中止したいときは、“キャンセル”を選んでください。

4. 【SET】を押して、表示しているファイルを消去します。

- 手順2〜4を繰り返して、他のファイルを消去することができます。

5. 【MENU】を押して、消去操作を終了します。

重要!
- 消去できないファイルを消去しようとすると、“このファイルではこの機能は使用できません”と表示されます。

全ファイルを消去する

すべてのファイルを消去することができます。

1. PLAYモードにして【▼】(⚡ 🗑)を押します。

2. 【▲】【▼】で"全ファイル消去"を選び、【SET】を押します。

3. 【▲】【▼】で"はい"を選びます。

- 消去を中止したいときは、"いいえ"を選んでください。

4. 【SET】を押して、すべてのファイルを消去します。

ファイルの管理について

本機では画像の撮影や再生の他、画像プリント時の枚数指定等やファイルの消去防止の設定ができます。

フォルダの分類について

本機は内蔵フラッシュメモリーやメモリーカード内に、フォルダ（ディレクトリ）を自動的に作成します。

メモリー内のフォルダ／ファイルについて

撮影した画像は連番を名前としたフォルダの中に自動的に記録されます。フォルダは最大900作成されます。フォルダ名は次の通りです。

例：連番100のフォルダ名

100CASIO

連番（3桁）

各フォルダには最大9,999番までのファイルが登録できます。10,000枚以上撮影した場合は、次の連番のフォルダが自動的に作成されます。ファイル名は次の通りです。

例：26番目に記録したファイル名

- 保存できるフォルダ数、ファイル数は画質やメモリーカードの容量によって異なります。
- 詳しいディレクトリ構造に関しては「メモリー内のディレクトリ構造」（103ページ）をご覧ください。

記録したファイルにメモリープロテクト（消去防止）をかける

大事なファイルを誤って消去してしまうことを防止する機能（メモリープロテクト）がついています。メモリープロテクトをかけたファイルは、消去操作（72ページ）により消去することはできません。メモリープロテクトのかけかたには、1ファイル単位、全ファイルの2通りがあります。

1ファイル単位でメモリープロテクトをかける

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“プロテクト”と選び、【▶】を押します。

3. 【◀】【▶】でメモリープロテクトをかけたいファイルを表示させます。

4. 【▲】【▼】で“オン”を選び、【SET】を押します。

- メモリープロテクトがかかり、[key icon] が画面上に表示されます。
- メモリープロテクトを解除するときは、“オフ”を選んでください。

5. 【MENU】を押して、メモリープロテクトを終了します。

全ファイルにメモリープロテクトをかける

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“プロテクト”と選び、【▶】を押します。

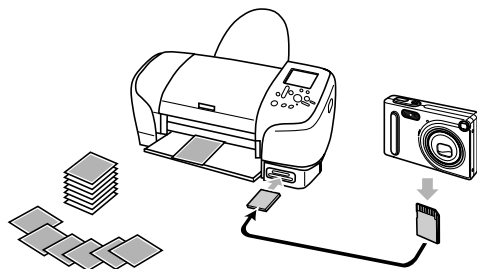
3. 【▲】【▼】で“全ファイル　オン”を選び、【SET】を押します。

- メモリープロテクトを解除するときは、“全ファイル　オフ”を選んでください。

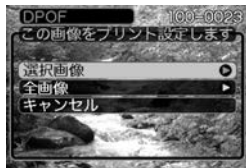
4. 【MENU】を押して、メモリープロテクトを終了します。

DPOF機能について

DPOF(Digital Print Order Format)とはデジタルカメラで撮影した中からプリントしたい画像や枚数などの設定情報をメモリーカードなどの記録媒体に記録するためのフォーマットです。DPOF対応の家庭用プリンターやサービスラボでプリントすることができます。
本機では撮影された画像ファイル名などを意識することなく、【液晶モニター】で確認しながらプリントしたい画像の設定を行うことができます。

- 設定可能な内容
  画像／枚数／日付

1画像単位で印刷設定を行う

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“DPOF”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“選択画像”を選び、【▶】を押します。

4. 【◀】【▶】で印刷したい画像を表示させます。

5. 【▲】【▼】で印刷する枚数を決めます。

- 印刷設定できる枚数は99枚までです。印刷したくない場合は“00”にしてください。

6. 日付を印刷したい場合は【DISP】を押して[日付アイコン]を表示させます。

- 日付が不要なときは、【DISP】を押して[日付アイコン]を消してください。
- 他の画像を印刷する場合は、操作4〜6をくり返してください。

7. 【SET】を押します。

全画像に印刷設定を行う

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“DPOF”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“全画像”を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で印刷する枚数を決めます。

- 印刷設定できる枚数は99枚までです。印刷したくない場合は“00”にしてください。

5. 日付を印刷したい場合は【DISP】を押して[日付アイコン]を表示させます。

- 日付が不要なときは、【DISP】を押して[日付アイコン]を消してください。

6. 【SET】を押します。

PRINT Image MatchingⅡについて

本製品はPRINT Image MatchingⅡに対応しています。PRINT Image MatchingⅡ対応プリンタでの出力及び対応ソフトウエアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。

PRINT Image Matching及びPRINT Image MatchingⅡに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

Exif Printについて

Exif Print (Exif2.2) は、対応プリンタをお使いの場合に画像ファイルに記録された撮影情報を印刷出力に反映させることを可能にします。

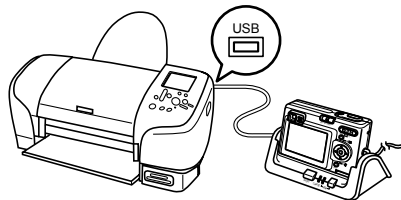
重要!
- 対応プリンタの機種名やプリンタのバージョンアップ等については、各プリンタメーカーへお問い合わせください。

USB DIRECT - PRINTについて

本製品はセイコーエプソン株式会社提唱のUSB DIRECT - PRINTに対応しています。本製品はUSB DIRECT - PRINT対応プリンタに直接接続し、デジタルカメラのモニタ上で写真選択や印刷開始を指示することができます。

DPOF機能(76ページ)にて登録した情報をもとに、本機をUSB DIRECT - PRINT対応プリンタにUSBクレードルを介して接続するだけで、印刷することができます。

1. **DPOF機能(76ページ)で、印刷したい画像をあらかじめ指定します。**

2. **USBクレードルとプリンタを接続します。**

- USBクレードルにはACアダプターも接続しておいてください。

3. **カメラをUSBクレードルにセットします。**

4. **プリンタの電源を入れます。**

5. **プリンタの印刷用紙をセットします。**

6. **USBクレードルの【USB】ボタンを押します。**

- カメラにプリントメニューが表示されます。

7. **カメラのプリントメニューから“プリント”を選び、【SET】を押します。**

- DPOF機能で指定した画像が自動的に印刷されます。
- もう一度印刷する場合は、【USB】ボタンを押し直してください。
- DPOFの設定をしていない場合はメッセージが表示され、DPOFの設定画面(76ページ)が表示されます。このときは、DPOFの設定を行ってから、もう一度プリントの操作を行ってください。
- カメラのプリントメニューで“DPOF”を選び、【SET】を押すとDPOFの設定ができます(76ページ)。

8. **印刷が終了したら電源が切れます。カメラをUSBクレードルから外します。**

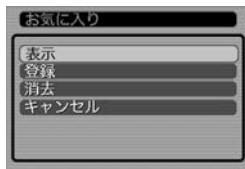
重要!
- 印刷品位や用紙の設定についてはプリンタの取扱説明書をご覧ください。
- 対応プリンタの機種名やプリンタのバージョンアップ等については、プリンタメーカーへお問い合わせください。
- 印刷中はケーブルを抜いたり、カメラやクレードルの操作を行わないでください。プリンタがエラーを起すことがあります。
- 印刷を中止したいときは、プリンタ側で操作してください。

お気に入りフォルダの使いかた

記録した思い出の風景や家族の写真など好きな静止画を「記録フォルダ」（103ページ）から内蔵メモリーの「お気に入りフォルダ（“FAVORITE”フォルダ）」（103ページ）にコピーすることができます。通常の再生では表示されないので、プライベートな画像を持ち歩くのに便利です。メモリーカードを入れ替えても画像は消えませんので、いつでも見ることができます。

お気に入りフォルダにファイルをコピー（登録）する

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押します。

- 内蔵メモリーまたはメモリーカード内のファイル名が表示されます。

4. 【◀】【▶】で、お気に入りフォルダに登録したいファイルを選びます。

5. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押します。

- 内蔵メモリー内のお気に入りフォルダにファイルを登録します。

6. 設定を終えるには【▲】【▼】で“キャンセル”を選び、【SET】を押します。

参考

- 画像は、320×240pixelsのQVGAサイズにリサイズしてコピーされます。
- 登録したファイルには、連番（0001～9999）がファイル名として自動的に付けられます。ただし、登録できるファイル数は画質等により異なり、内蔵メモリの空き容量の範囲内となります。

重要!

- お気に入りフォルダにリサイズしてコピーされたファイルは、元の画像サイズに戻すことはできません。

お気に入りフォルダのファイルを表示する

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“表示”を選び、【SET】を押します。

4. 【◀】【▶】で、お気に入りフォルダに登録したファイルを見ていきます。

【▶】を押す：進みます。

【◀】を押す：戻ります。

ファイル名

5. 表示を終えるには【MENU】を2回押します。

参考 •【◀】【▶】を押し続けると、画像は早く送られます。

重要! • お気に入りフォルダ(“FAVORITEフォルダ”)は内蔵メモリーにのみ作成されるため、パソコン上でお気に入りフォルダのファイルを表示するときは、カメラからメモリーカードを取り出した状態でUSBクレードルにセットして、USB通信を行ってください(93、103ページ)。

お気に入りフォルダからファイルを消去する

1. PLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “再生機能”タブ→“お気に入り”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押します。

4. 【◀】【▶】で、お気に入りフォルダから消去したいファイルを選びます。

5. 【▲】【▼】で“消去”を選び、【SET】を押します。

• お気に入りフォルダからファイルを消去します。

6. 設定を終えるには【▲】【▼】で“キャンセル”を選び、【SET】を押します。

重要! • お気に入りフォルダのファイルは、72ページの消去操作により消去することはできません。ただし、フォーマット操作(88ページ)を行うと、消去されてしまいます。

その他の設定について

ファイルの連番のカウント方法を切り替える

撮影時にファイル(画像データ)に付く連番(74ページ)のカウント方法を切り替えることができます。

1. **RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。**

2. **"設定"タブ→"ファイルNo."と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。**

メモリする　：今まで撮影したファイルの連番を記憶します。ファイルを消去したり、メモリーカードを交換しても、記憶した連番からファイル名を付けます。

メモリしない：ファイルの連番は記憶せずに、最大の連番＋１からファイル名を付けます。

操作音のオン／オフを切り替える

操作音(BEEP音)のオン／オフを切り替えることができます。

1. **RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。**

2. **"設定"タブ→"操作音"と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。**

入：操作音が鳴ります。

切：操作音は鳴りません。

起動画面のオン／オフを切り替える

RECモードで電源を入れたとき、カメラが記録している画像を起動画面として、【液晶モニター】に約2秒間表示するかどうかを切り替えることができます。

1. **RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。**

2. **“設定”タブ→“起動画面”と選び、【▶】を押します。**

3. **【◀】【▶】で起動画面にしたい画像を選びます。**

- 設定可能な画面は、静止画および、2秒以下、200KB以下のムービー画像です。

4. **【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。**

入：設定時に表示していた撮影画面を起動画面として表示します。

切：起動画面は表示しません。

重要!
- 起動画像に設定した撮影画像（静止画／ムービー画像）は、起動画像メモリーに登録されます。このメモリーには、画像は一つしか登録できません。起動画面を別の撮影画像に変更すると、メモリー内の画像は上書きされてしまいますので、変更する前の撮影画像に戻すときは、変更する前の画像データが必要となります。また、起動画像に登録した撮影画像（静止画／ムービー画像）を、設定画面から消去することはできません。

アラームを鳴らす

指定した時刻にアラームを鳴らし、同時に指定した画像を表示できます。最大3つの時刻を設定できます。

アラームを設定する

1. **PLAYモードにして【MENU】を押します。**

2. **“再生機能”タブ→“アラーム”と選び、【▶】を押します。**

3. **【▲】【▼】で設定したいアラームを選び、【▶】を押します。**

4. **【◀】【▶】で項目を選び、【▲】【▼】で設定内容を選びます。**

- 時刻、1回／毎日、オン／オフが設定できます。

5. **【DISP】を押します。**

- ここで【SET】を押してもアラームの設定を終えることができます。

6. **【◀】【▶】で表示したい画像を選び、【SET】を押します。**

7. **内容を確認して【SET】を押します。**

- アラームの優先順は設定1、設定2、設定3です。

アラームを止める

アラームは電源をオフにした状態で、設定した時刻になると約1分間鳴り続けます。その後、電源オフの状態に戻ります。途中で止めたい場合は、何かボタンを押してください。USBクレードル上で充電中の場合は、USBクレードルの【USB】、【PHOTO】ボタン、カメラのボタン(【ズームボタン】以外)を押してください。

重要!
- アラームは次の場合は鳴りません。
  - 電源がオンになっている
  - USB通信中
  - フォトスタンド機能使用中

日時を設定し直す

日時を設定し直したいときは、ホームタイム(自宅の日時)を設定してから、日時の設定を行います。

重要!
- 日時の設定を行う前にホームタイムを自分の住んでいる地域に正しく設定しないとワールドタイム(86ページ)の日時が正しく表示されませんのでご注意ください。

ホームタイムの都市を設定し直す

1. RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、【▶】を押します。
- 現在設定されている内容が表示されます。

3. 【▲】【▼】で“自宅”を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で“都市”を選び、【▶】を押します。

5. 【▲】【▼】【◀】【▶】で自宅の地域を選び、【SET】を押します。

6. 【▲】【▼】で自宅の都市を選び、【SET】を押します。
- 日本で使う場合は“Tokyo”を選んでください。

7. 【SET】を押して、設定を終了します。

ホームタイムの日時を設定し直す

1. RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “設定”タブ→“日時設定”と選び、【▶】を押します。

3. 日付と時刻を合わせます。

【▲】【▼】：カーソル(選択枠)の部分の数字などを変えます。
【◀】【▶】：カーソル(選択枠)を移動します。
【DISP】：12時間表示と24時間表示の切り替えができます。

4. 【SET】を押して、設定を終了します。

日付の表示スタイルを切り替える

画面に表示される日付の表示スタイルを3通りの中から選ぶことができます。

1. RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “設定”タブ→“表示スタイル”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

例) 2003年10月23日
年／月／日：03/10/23
日／月／年：23/10/03
月／日／年：10/23/03

ワールドタイムを表示する

購入時に設定した自宅の日時とは別に、海外旅行などで訪問する都市の日時を1都市選んで表示することができます。世界162都市(32タイムゾーン)に対応しています。

ワールドタイムを表示させる

1. RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、【▶】を押します。

- 現在設定されている内容が表示されます。

3. 【▲】【▼】で“訪問先”を選びます。

自宅　：購入時に設定した自宅の日時を表示します。
訪問先：訪問先として設定した都市の日時を表示します。

4. 【SET】を押して、設定を終了します。

ワールドタイムを設定する

1. RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、【▶】を押します。
- 現在設定されている内容が表示されます。

3. 【▲】【▼】で“訪問先”を選び、【▶】を押します。
- 自宅の都市について設定する場合は、“自宅”を選びます。

4. 【▲】【▼】で“都市”を選び、【▶】を押します。

5. 【▲】【▼】【◀】【▶】で訪問先の地域を選び、【SET】を押します。

6. 【▲】【▼】で訪問先の都市を選び、【SET】を押します。
- 現在設定されている内容が表示されます。

7. 【SET】を押して、設定を終了します。

サマータイムを設定する

1. RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “設定”タブ→“ワールドタイム”と選び、【▶】を押します。
- 現在設定されている内容が表示されます。

3. 【▲】【▼】で“訪問先”を選び、【▶】を押します。
- 自宅の都市について設定する場合は、“自宅”を選びます。

4. 【▲】【▼】で“サマータイム”を選び、【▶】を押します。

5. 【▲】【▼】でサマータイムの設定を選びます。

入：サマータイムになります。

切：通常の時刻になります。

6. 【SET】を押します。
- 現在設定されている内容が表示されます。

7. 【SET】を押して、設定を終了します。

表示言語を切り替える

画面のメッセージを10の言語の中から選ぶことができます。

1. RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。

2. “設定”タブ→“Language”と選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押します。

日本語	：日本語
English	：英語
Français	：フランス語
Deutsch	：ドイツ語
Español	：スペイン語
Italiano	：イタリア語
Português	：ポルトガル語
中國語	：中国語(繁体)
中国语	：中国語(簡体)
한국어	：韓国語

内蔵メモリーをフォーマットする

内蔵メモリーをフォーマットすると、内蔵メモリーの内容がすべて消去されます。

重要!
- 内蔵メモリーをフォーマットすると、二度とデータを元に戻すことはできません。フォーマット操作を行う際は、本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- ファイルデータにメモリープロテクト(75ページ)をかけていても、内蔵メモリーをフォーマットすると、すべてのデータが消去されます。
- お気に入りに登録した画像(82ページ)や、ベストショットモードでカスタム登録した内容についても消去されますのでご注意ください。起動画面に設定した画像は消去できません。

1. 本機にメモリーカードが入っていないことを確認します。
- もしもメモリーカードが入っている場合は、取り出してください(90ページ)。

2. RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。

3. “設定”タブ→“フォーマット”と選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【SET】を押します。
- フォーマットを実行しないときは、“キャンセル”を選んでください。

メモリーカードを使用する

本機は、市販のメモリーカード(SDメモリーカードまたはMMC〈マルチメディアカード〉)を使用することにより、記録用のメモリーを拡張することができます。また、内蔵のフラッシュメモリーからメモリーカードに、またはメモリーカードから内蔵フラッシュメモリーにファイルをコピーすることもできます。

- ファイルが記録されるメモリーは、次のように自動的に切り替わります。

メモリーカードを入れていないときは	→	内蔵メモリーに記録されます。
メモリーカードを入れているときは	→	メモリーカードに記録されます。

- メモリーカードを入れた状態で内蔵メモリーを使用することはできません。

重要!

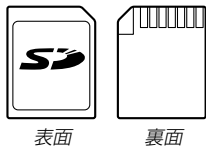
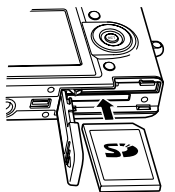
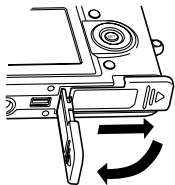
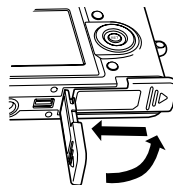
- メモリーカードの抜き差しは、電源を切った状態で行ってください。
- カードには、表裏、前後の方向があります。無理に入れようとすると破損の恐れがあります。
- メモリーカードを使う際はメモリーカードの取扱説明書もあわせてお読みください。
- カードの種類によって処理速度が遅くなる場合があります。
- SDメモリーカードには、書き込み禁止スイッチがあります。誤って消去する不安があるときは使用してください。ただし、撮影・フォーマット・消去時は解除しないと各操作が実行できません。

メモリーカードの使いかた

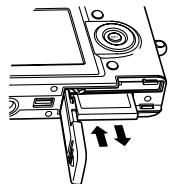
メモリーカードを入れる

1. 本体側面の【電池カバー】を押しながら、矢印の方向にスライドさせて開きます。

2. メモリーカードの表面を上(【液晶モニター】側)にして、【メモリーカード挿入口】にしっかり押し込みます。

表面　裏面

3. 【電池カバー】を図のように矢印の方向に押しつけながら、スライドして閉めます。

メモリーカードを取り出す

1. メモリーカードを押すと、メモリーカードが少し出てきます。

2. メモリーカードを引き抜きます。

重要!

- 故障の原因となりますので、【メモリーカード挿入口】にはメモリーカード以外のものを入れないでください。
- 万一異物や水がメモリーカード挿入部に入り込んだ場合は、本機の電源を切り、電池を抜いて、販売店またはカシオテクノ・サービスステーションにご連絡ください。
- 【動作確認用ランプ】が点滅している間にメモリーカードを取り出さないでください。撮影された画像がメモリーカードに記録されなかったり、メモリーカードを破壊する場合があります。

メモリーカードをフォーマットする

メモリーカードをフォーマットすると、メモリーカードの内容がすべて消去されます。

重要!
- メモリーカードは必ずカメラでフォーマットしてください。パソコンでフォーマットすると処理速度が著しく遅くなります。またSDメモリーカードの場合、SD規格非準拠となり、互換性・性能等で問題が生じる場合があります。
- メモリーカードをフォーマットすると、二度とデータを元に戻すことはできません。フォーマット操作を行う際は、本当にフォーマットしてもよいかどうかをよく確かめてから行ってください。
- ファイルデータにメモリープロテクト(75ページ)をかけていても、メモリーカードをフォーマットすると、すべてのデータが消去されます。

1. **本機にメモリーカードを入れます。**

2. **電源を入れ、RECモードまたはPLAYモードにして【MENU】を押します。**

3. **“設定”タブ→“フォーマット”と選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】で“フォーマット”を選び、【SET】を押します。**
- フォーマットを実行しないときは、“キャンセル”を選んでください。

メモリーカードのご注意

- メモリーカードは必ずSDメモリーカードまたはMMC(マルチメディアカード)を使用してください。他のメモリーカードをお使いの場合は動作保障できません。
  また、動作確認を行ったメモリーカードについては、カシオホームページ(http://www.casio.co.jp)をご覧ください。
- 静電気、電気的ノイズ等により記録したデータが消滅または破壊することがありますので、大切なデータは別のメディア(MOディスク、ハードディスクなど)にバックアップして控えをとることをおすすめします。
- 万一メモリーカードの異常が発生した場合は、メモリーカードのフォーマットの操作で復帰できますが、外出先などでこの操作を行えない場合に備えて複数枚のメモリーカードを持たれることをおすすめします。
- 異常と思われる画像を撮影したり、新たにメモリーカードをご購入された場合は、一度フォーマット(初期化)してお使いいただくことをおすすめいたします。
- フォーマットの操作を行うときは、充電式電池をフル充電状態にしてから行ってください。フォーマット中に電源が切れると正しくフォーマットが行われず、メモリーカードが正常に使用できない場合があります。

ファイルをコピーする

内蔵フラッシュメモリーとメモリーカードの間で、ファイルをコピーすることができます。

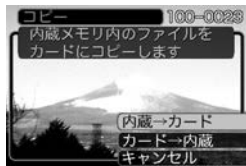
重要! • コピーできるのはカメラで撮影した静止画、動画ファイルだけです。その他のファイルはコピーできませんので、ご注意ください。

内蔵メモリーからメモリーカードにファイルをコピーする

ファイルのコピーは、一括で行われます。

1. **本機にメモリーカードを入れます。**

2. **電源を入れ、PLAYモードにして【MENU】を押します。**

3. **“再生機能”タブ→“コピー”と選び、【▶】を押します。**

4. **【▲】【▼】で“内蔵→カード”を選び、【SET】を押します。**
- コピーが始まり、“処理中です　しばらくお待ちください”と表示されます。
- コピーが終わると、コピーしたフォルダの一番最後にあるファイルを表示します。

メモリーカードから内蔵メモリーにファイルをコピーする

ファイルのコピーは画像を確認しながら、1枚ずつ行います。

1. **「内蔵メモリーからメモリーカードにファイルをコピーする」の手順1～3と同じ操作を行います。**

2. **【▲】【▼】で“カード→内蔵”を選び、【SET】を押します。**

3. **【◀】【▶】でコピーしたいファイルを選びます。**

4. **【▲】【▼】で“コピー”を選び、【SET】を押します。**
- コピーが始まり、“処理中です　しばらくお待ちください”と表示されます。
- コピーが終わると、コピー前に表示していたファイルに戻ります。
- 手順3～4をくり返して、他の画像をコピーすることができます。

5. **【MENU】を押して、コピーの操作を終了します。**

参考 • ファイルは内蔵メモリー内の一番大きい番号のフォルダにコピーされます。

パソコンでファイルを見る

このカメラは、USBクレードルを介してUSB端子を備えたパソコンと接続して、パソコンでファイルを見たり、保存することができます。USB接続を行うには、使用するパソコンによっては付属のCD-ROMからUSBドライバをパソコンにインストールする必要があります。

お持ちのパソコンがWindowsの場合

パソコンにファイルを取り込むためには次の手順で操作します。

1. Windows98/Me/2000を使っている場合はUSBドライバをパソコンにインストールする。
   - 初めて使用するときだけ必要です。
   - Windows XPの場合はインストールの必要はありません。

2. カメラとパソコンをUSBクレードルで接続する。

3. 画像ファイルを見る／コピーする。

具体的な操作方法は以降に記載されていますので、手順に従って操作してください。また、接続するパソコンの取扱説明書もあわせてお読みください。

重要!
- USBドライバをインストールする前に、カメラをパソコンに接続しないでください。
- 内蔵フラッシュメモリーに保存されているファイルデータをパソコンに転送する場合は、カメラからメモリーカードを取り出した状態でUSBクレードルにセットしてください。

1. Windows98/Me/2000をお使いの場合は、操作2へ進んでください。WindowsXPをご使用の場合は、USBドライバをインストールする必要はありませんので、操作6に進んでください。

- この操作手順はWindows98をもとに制作されています。

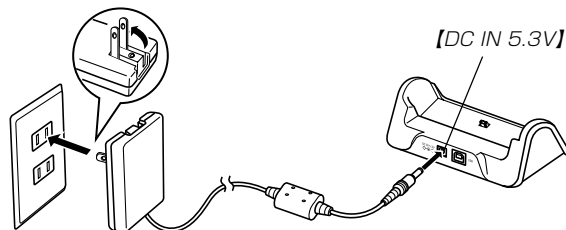
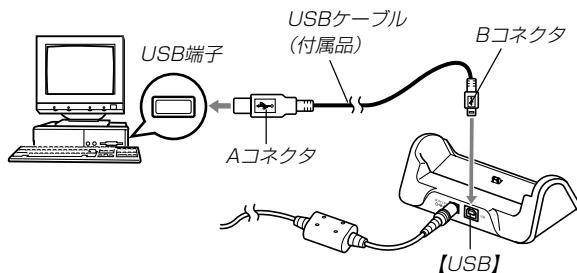
2. 付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

3. MENU上の「日本語」をクリックします。

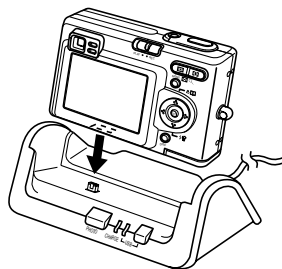
4. 「USB driver」の「インストール」をクリックします。

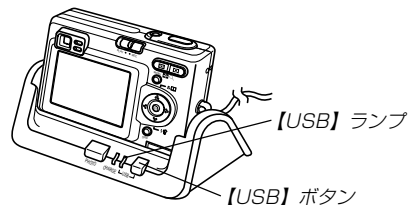
- インストールが開始されます。

5. セットアップ完了の画面が出たら「はい、直ちにコンピュータを再起動します」をチェックして「完了」をクリックし、パソコンを再起動させます。

6. 付属の ACアダプターをUSBクレードルの【DC IN 5.3V】と家庭用コンセントに接続します。

7. 付属のUSBケーブルでUSBクレードルとパソコンのUSB端子を接続します。

- USBケーブルをパソコンとUSBクレードルに接続するときは、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせて接続してください。
- USBコネクタは奥まで確実に差し込んでください。正しく接続されないと、正常に動作しません。

8. カメラの電源を切ってから、カメラをUSBクレードルの上にセットします。

- カメラの電源を入れたまま、USBクレードルの上にセットしないでください。

9. USBクレードルの【USB】ボタンを押します。

- 「新しいハードウェア…」とダイアログが表示され、自動的にカメラ内のメモリーカードまたは、内蔵のメモリーが認識されます。次回からはパソコンとカメラをUSBクレードルを介して接続するだけで、カメラ内のメモリーカードまたは、内蔵のメモリーを認識します。
- 【USB】ボタンを押すとUSBモードになり、クレードルの【USBランプ】が緑色に点灯します（121ページ）。
- パソコンのOSの環境によっては、「リムーバブル　ディスク」ガイダンスが表示されることがあります。この場合は、ガイダンスを閉じてください。

10. 「マイコンピュータ」をダブルクリックします。

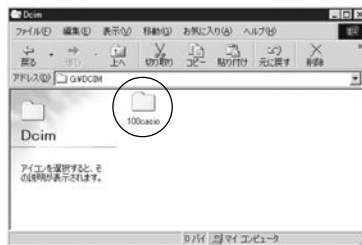
11. 「リムーバブルディスク」をダブルクリックします。

- メモリーカードまたは、内蔵のメモリーは「リムーバブルディスク」として認識されています。

リムーバブルディスク

12. 「Dcim」フォルダをダブルクリックします。

Dcim

13. 見たい画像の入ったフォルダをダブルクリックします。

14. 見たい画像ファイルをダブルクリックして、画像を見ます。

- ファイル名については「メモリー内のディレクトリ構造」(103ページ)を参照ください。

15. **ファイルを保存する場合は「リムーバブルディスク」内の「Dcim」フォルダを「マイドキュメント」にドラッグアンドドロップします。**

- 「Dcim」フォルダ(画像ファイルが保存されているフォルダ)が「マイドキュメント」フォルダにコピーされます。

重要! • カメラ内やメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行った場合は、画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンにコピーした画像で行ってください。

16. **USB接続を終えます。**

- WindowsMe/98の場合:

  USBクレードルの【USB】ボタンを押し、【USB】ランプが消灯したのを確認してから、カメラをUSBクレードルから取りはずします。

- Windows2000/XPの場合:

  パソコン画面上のタスクトレイのカードサービスを左クリックし、カメラに割り当てられているドライブ番号の停止を選択します。その後、USBクレードルの【USB】ボタンを押し、【USB】ランプが消灯したのを確認してから、カメラをUSBクレードルから取りはずします。

USB接続時のご注意

- 接続するパソコンの取扱説明書もあわせてお読みください。
- 必ずUSBクレードルにACアダプターを接続して、カメラの電源を供給してください。
- カメラの【モードスイッチ】がどの位置にあっても、USBでの通信ができます。
- パソコンのモニターに同一の画像を表示して放置しておくことはお止めください。残像現象(画面焼け)を起す場合があります。
- 通信中にケーブルを抜いたり、カメラやクレードルの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

お持ちのパソコンがMacintoshの場合

Macintoshにファイルを取り込むためには次の手順で操作します。

重要! • Mac OS 8.5.1以下、Mac OS Xの10.0ではご使用できません。

1. USBドライバをMacintoshにインストールする。 • 初めて使用するときだけ必要です。Mac OS 9、Mac OS Xについてはインストールの必要はありません。

2. カメラとMacintoshをUSBクレードルで接続する。

3. 画像ファイルを見る／コピーする。

具体的な操作方法は以降に記載されていますので、手順に従って操作してください。また、接続するパソコンの取扱説明書もあわせてお読みください。

重要!
• USBドライバをインストールする前に、カメラをパソコンに接続しないでください。
• 内蔵フラッシュメモリーに保存されているファイルデータをパソコンに転送する場合は、カメラからメモリーカードを取り出した状態でUSBクレードルにセットしてください。

1. Mac OS 8.6をお使いの場合は、操作2へ進んでください。
Mac OS 9、Mac OS Xをご使用の場合は、USBドライバをインストールする必要はありませんので、操作9に進んでください。

2. 付属のCD-ROMをMacintoshのCD-ROMドライブにセットします。

3. 起動ディスクに指定されているハードディスクをダブルクリックして開きます。

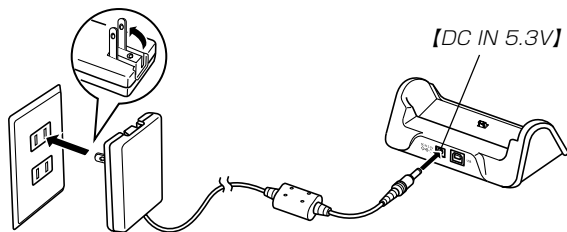
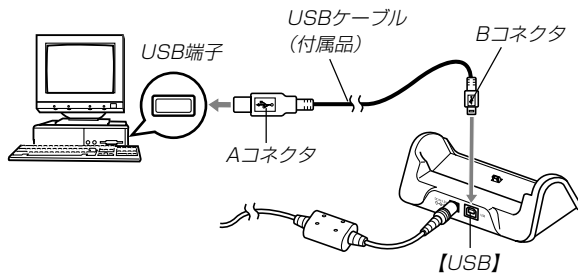
4. 開いた「ハードディスク」ウインドウの中の「システムフォルダ」をダブルクリックして開きます。

5. 開いた「システムフォルダ」ウインドウの中の「機能拡張」フォルダをダブルクリックして開きます。

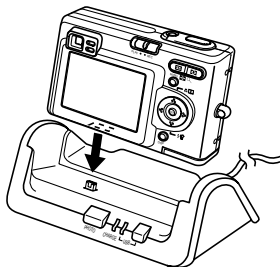
6. CD-ROM内の「CASIO」→「Japanese」→「USB Driver」の順にフォルダをダブルクリックして開きます。

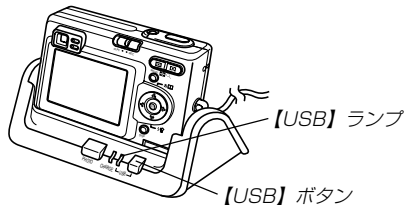
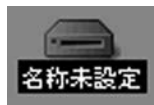
7. 開いた「USB Driver」ウインドウの中の「CASIO-USB StorageDriver」ファイルと「CASIO-USB StorageClassShim」ファイルを、先ほど開いた「機能拡張」フォルダのウインドウの中にドラッグアンドドロップします。

8. インストールは終了しました。「機能拡張」フォルダ内に「CASIO-USB StorageDriver」ファイルと「CASIO-USB StorageClassShim」ファイルが入ったことを確認したらMacintoshを再起動させます。

9. 付属の ACアダプターをUSBクレードルの【DC IN 5.3V】と家庭用コンセントに接続します。

10. 付属のUSBケーブルでUSBクレードルとパソコンのUSB端子を接続します。

- USBケーブルをパソコンとUSBクレードルに接続するときは、それぞれの機器のUSB端子の形状とケーブルの接続端子の形状を合わせて接続してください。
- USBコネクタは奥まで確実に差し込んでください。正しく接続されないと、正常に動作しません。

11. カメラの電源を切り、カメラをUSBクレードルの上にセットします。

- カメラの電源を入れたまま、USBクレードルの上にセットしないでください。

12. USBクレードルの【USB】ボタンを押します。

- 【USB】ボタンを押すとUSBモードになり、クレードルの【USBランプ】が緑色に点灯します(121ページ)。

13. カメラ内のメモリーカードまたは内蔵のメモリーがドライブとして認識されます。

- Mac OS のバージョンにより、表示されるアイコンが異なる場合があります。
- 次回からはMacintoshとカメラをUSBクレードルを介して接続するだけで、カメラ内のメモリーカードや内蔵のメモリーをドライブとして認識します。

14. 表示されたドライブ→「DCIM」フォルダ→見たい画像の入ったフォルダの順でダブルクリックします。

15. 見たい画像ファイルをダブルクリックして、画像を見ます。

- ファイル名については「メモリー内のディレクトリ構造」(103ページ)を参照ください。

16. ファイルを保存する場合は「DCIM」フォルダを保存したいフォルダにドラッグアンドドロップします。

- 「DCIM」フォルダがMacintosh内のフォルダにコピーされます。

重要! • カメラ内やメモリーカード内の画像に対して、パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行わないでください。パソコンで修正・削除・移動・名前の変更などを行った場合は、画像管理データと整合性がとれず、カメラで再生できなくなったり、撮影枚数が極端に変わったりします。修正・削除・移動・名前の変更などはパソコンにコピーした画像で行ってください。

17. **USB接続を終えるには、画面上のカメラのドライブをゴミ箱へドラッグアンドドロップします。その後、USBクレードルの【USB】ボタンを押し、【USB】ランプが消灯しているのを確認してから、カメラをUSBクレードルから取りはずします。**

USB接続時のご注意

- 接続するパソコンの取扱説明書もあわせてお読みください。
- 必ずUSBクレードルにACアダプターを接続して、カメラの電源を供給してください。
- カメラの【モードスイッチ】がどの位置にあっても、USBでの通信ができます。
- パソコンのモニターに同一の画像を表示して放置しておくことはお止めください。残像現象(画面焼け)を起す場合があります。
- 通信中にケーブルを抜いたり、カメラやクレードルの操作を行わないでください。データが破壊される恐れがあります。

パソコンでいろいろなことができます

撮影画像をパソコンでさまざまに活用することができます。活用方法については、下記のページを参考にしてください。

- アルバム形式で見たい
  ....「アルバム機能」(105ページ)

- アルバム形式で印刷したい
  ....「アルバム機能」(105ページ)

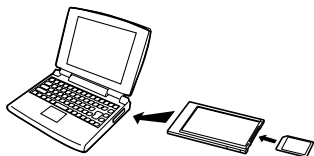
- 画像を自動取り込み/管理したい
  ....「ソフトをインストールする」(111ページ)を参照して、PhotoLoaderをインストールしてください。

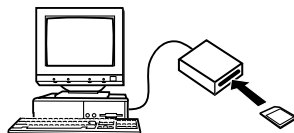
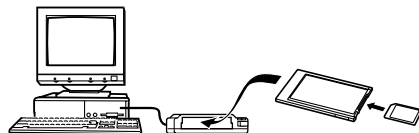
- 画像をレタッチ(加工)したい
  ....「ソフトをインストールする」(111ページ)を参照して、Photohandsをインストールしてください。

メモリーカードを直接接続して取り込む

パソコンとのファイルのやりとりをメモリーカードから直接行うことができます。パソコンの機種によって接続方法が異なります。代表的な接続方法は次の通りです。

- SDメモリーカードスロットのある機種
  SDメモリーカードを直接差し込みます。

- PCカードスロットのある機種
  市販のPCカードアダプター(SDメモリーカード／MMC用)を使用します。
  具体的な使用方法はPCカードアダプター(SDメモリーカード／MMC用)とパソコンに付属の取扱説明書を参照ください。

- 前記以外の機種

1) 市販のSDメモリーカード用リーダー／ライターを使用します。
   具体的な使用方法はSDメモリーカード用リーダー／ライターに付属の取扱説明書を参照ください。

2) 市販のPCカード用リーダー／ライターと市販のPCカードアダプター(SDメモリーカード／MMC用)を使用します。
   具体的な使用方法はPCカード用リーダー／ライターとPCカードアダプター(SDメモリーカード／MMC用)に付属の取扱説明書を参照ください。

メモリー内のデータについて

本機で撮影された画像やその他のデータは、DCF(Design rule for Camera File system)規格に準拠した方法でメモリーへ保存されます。DCF規格とは、画像ファイルと画像に関連するファイルをデジタルカメラと関連機器の間で簡単に交換することを目的とした規格です。

DCF規格について

DCF規格対応の機器(デジタルカメラやプリンターなど)の間で画像の互換性があります。画像ファイルのデータ形式やメモリー内のディレクトリ構造に規定がありますので、本機で撮影した画像をDCF規格対応の他社のカメラで見たり、この規格対応の他社のプリンターで印刷したりすることができます。逆にDCF規格対応の他社のデジタルカメラの画像も本機で見ることができます。

メモリー内のディレクトリ構造

■ディレクトリ構造

※ 内蔵メモリー内にのみ作成されるフォルダです。

■フォルダ／ファイルの内容

- DCIMフォルダ
  デジタルカメラで扱うファイル全てを収めたフォルダです。
- 記録フォルダ
  デジタルカメラで記録したファイルを収めたフォルダです。
- 画像ファイル
  デジタルカメラで撮影した画像ファイルです。
  拡張子は「JPG」です。
- ムービーファイル
  デジタルカメラで撮影したムービーファイルです。
  拡張子は「AVI」です。
- アルバムフォルダ
  アルバム機能で使用するファイルを収めたフォルダです。
- アルバムのHTMLファイル
  アルバム機能で使用するファイルです。拡張子は「HTM」です。
- お気に入りフォルダ
  お気に入りの画像ファイルを収めたフォルダです。
  320×240pixelsの画像として収められています。
- DPOFファイルを収めたフォルダ
  DPOFファイルなどを収めたフォルダです。
- ベストショット用フォルダ（内蔵メモリーのみ）
  カスタム登録されたシーンファイルを収めたフォルダです。
- カスタム登録されたシーンファイル（内蔵メモリーのみ）
  ベストショットモードで使用されるファイルです。

このデジタルカメラで扱える画像ファイル

- EX-Z3で撮影した画像ファイル
- DCF規格に対応している画像ファイル

※ DCF規格の画像ファイルでも、使用できない機能がある場合があります。また、本機以外で撮影された画像の場合、再生にかかる時間が長くなる場合があります。

パソコン上で内蔵メモリー／メモリーカードを扱うときの注意点

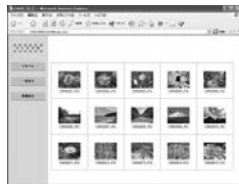
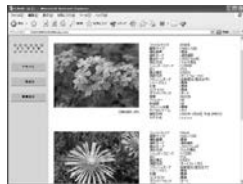
- メモリーの内容をパソコンのハードディスクやCD-R、MOディスクなどに保存する際は“DCIM”フォルダごと保存してください。その際“DCIM”フォルダの名前を年月日などに変えておくと、あとで整理するときに便利です。ただし、パソコンのハードディスクなどに保存したファイルを再度メモリーに戻して本機で再生する場合は、フォルダ名をパソコン上で“DCIM”に戻してからご使用ください。本機では“DCIM”以外の名前のフォルダは認識されません。“DCIM”フォルダ内の他のフォルダ名を変えた場合も同様です。元の名前に戻してから使用してください。

パソコンでファイルを活用する

アルバム機能を使用するとパソコンにアルバム形式で画像を表示させせることができます。また、付属のCD-ROM内に収録されているソフトウェアをインストールすることで、パソコンでのファイルの自動取り込みや画像のレタッチをすることができます。

アルバム機能

アルバム機能とは、本機で撮影した画像をレイアウトしたHTMLファイルを作成し、ホームページ上で一覧表示したり、印刷することができる機能です。

アルバム

一覧表示

情報表示

- 本機で作成したアルバムは、次のWebブラウザで見たり、印刷することができます。ただし、Windows 2000／98で動画を再生する場合はDirect Xが必要です。

  Microsoft Internet Explorer Ver 5.5以上

アルバムを作成する

1. **PLAYモードにして【▲】（ ）を押します。**

レイアウト見本

2. **【▲】【▼】で“作成”を選び、【SET】を押します。**

- アルバムの作成を開始し、“処理中です　しばらくお待ちください”と表示します。
- アルバムの作成が終了すると、アルバム作成メニューに入る前の画面に戻ります。
- アルバムを作成すると、内蔵メモリーまたはメモリーカード内の“ALBUM”フォルダの中に“INDEX.HTM”ファイル、その他アルバム用のファイルが作成されます。

重要!
- アルバム作成中に次の操作を行うと、アルバム用のファイルが作成されないばかりでなく、画像データ等のメモリー内のデータが破壊される恐れがあります。アルバム作成中は、下記の操作は絶対に行わないでください。
  - 【電池カバー】を開ける
  - メモリーカードを抜く
  - その他異常操作
- アルバム作成中にメモリーが一杯になったときは、“メモリがいっぱいです”と表示した後、アルバムの作成を中止します。
- 電池が切れかかっているときは、アルバムが正常に作成されない場合があります。
- アルバムの詳細設定で“自動作成”をする/しないのどちらに設定していても、【SET】を押すと、アルバムの作成を自動的に開始します(108ページ)。

アルバムのレイアウトを選ぶ

10種類のレイアウトの中から、表示したときのレイアウトを選ぶことができます。

1. **PLAYモードにして【▲】( )を押します。**

2. **【▲】【▼】で“レイアウト”を選びます。**

3. **【◀】【▶】で、表示したいレイアウトを選びます。**
- 【◀】【▶】を押すと、画面右横のレイアウト見本が切り替わります。

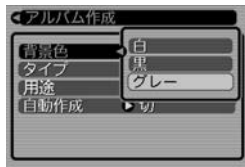
重要!
- レイアウト見本上に表示されるのはアルバムのレイアウトおよび背景色です。一覧/情報表示付きかどうかや用途の内容(閲覧/WEB/プリント)は表示されません。

アルバムの詳細を設定する

1. PLAYモードにして【▲】(🌷 📖)を押します。

2. 【▲】【▼】で“設定”を選び、【▶】を押します。

3. 【▲】【▼】で設定項目を選び、【▶】を押します。

- 各設定項目の設定内容につきましては、以降をご覧ください。

4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

■ 背景色を選ぶ

アルバムの背景色を白／黒／グレーの中から選ぶことができます。

- 背景色を選ぶと、一つ前の画面で表示されていたレイアウト見本上に選んだ色が表示されます。

■ タイプを選ぶ

アルバムのタイプを、標準タイプと一覧／情報付きタイプに切り替えることができます。

標準タイプ：選んだレイアウトに従って画像を表示するタイプです。
一覧／情報付きタイプ：アルバム表示の他、画像の簡単な一覧表示や撮影時の情報を同時に表示できるタイプです。

■ 用途を選ぶ

閲覧：　まず、簡易画像でアルバム表示されますので、簡単に画像を確認したりホームページ上で素早く閲覧したい場合に便利です。また、画像をクリックすると、大きな画像が表示されますので細部を確認したり、画像を1枚ずつきれいに印刷したい場合にお使いください。AVIファイルをクリックすると動画を再生します。CD-Rなどにコピーして配布するときなどに最適です。

WEB：　簡易画像でアルバム表示され、簡単に画像を確認したり、ホームページ上で素早く閲覧したい場合に便利です。“DCIM”フォルダ内にあるデータ量の少ない“ALBUM”のみで動作しますので、特にインターネットで利用するときに素早くアップロードできます。ただし、画像の拡大や動画の再生はできません。

プリント：詳細画像でアルバム表示するため、アルバムをきれいに印刷したい場合にお使いください。ただし、表示するのに時間がかかる場合があります。また、画像の拡大や動画の再生はできません。

■ 自動作成をする／しないを設定する

アルバム用のファイルを、電源を切ったときに自動的に作成するかどうかを設定することができます。

入：電源を切ったとき、内蔵メモリーまたはメモリーカード内にアルバム用のファイルを自動的に作成します。

切：電源を切ったとき、アルバム用のファイルを自動的に作成しません。

重要!

- 自動作成を“入”に設定している場合、電源を切ると【液晶モニター】は消灯しますが、緑の【動作確認用ランプ】は数秒間点滅しています。この間はアルバム用のファイルを作成していますので、下記の操作は絶対に行わないでください。
  - 【電池カバー】を開ける
  - メモリーカードを抜く
  - その他異常操作

参考

- 自動作成を“入”に設定すると、電源を切るときにアルバム用のファイルを作成するため、メモリー内の画像枚数に応じて、電源が切れるまでの時間が長くなります。もし、アルバム機能を使用しない場合は、自動作成を“切”に設定することをおすすめします。“切”に設定すると電源が切れるまでの時間が短くなります。

アルバムファイルを見るには

アルバムファイルはパソコンで使用しているWebブラウザで見たり、印刷することができます。

1. **内蔵メモリーまたはメモリーカード内のデータをパソコンに読み込むか、メモリーカードをパソコンに接続します(93、102ページ)。**

2. **内蔵メモリーまたはメモリーカード内の“DCIM”フォルダの中の“ALBUM”フォルダを開きます。**

3. **“INDEX.HTM”ファイルをWebブラウザで開きます。**

- 内蔵メモリーまたはメモリーカード内のフォルダの画像が一覧表示されます。

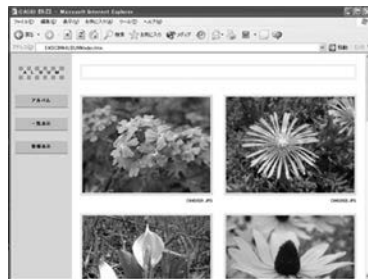
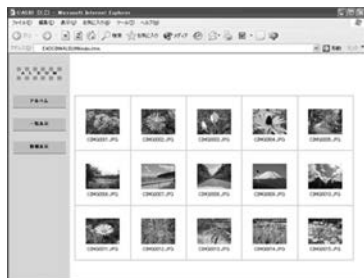
一覧／情報付きタイプの場合

4. **一覧／情報付きタイプでアルバムを作成した場合は、インターネットのホームページを見る要領で下記の部分をクリックして操作します。**

アルバム：カメラで作成したアルバムが表示されます。

一覧表示：フォルダ内の画像の一覧が表示されます。

情報表示：各画像の情報が表示されます。

- 用途を“閲覧”に設定しているとき、パソコン上に表示されている画像をダブルクリックすると、撮影したサイズそのままの大きさの画像が表示されます。

アルバム

一覧表示

情報表示

- 表示される画像情報の内容
  ファイルサイズ
  画像サイズ
  撮影画質
  撮影モード
  露出モード
  測光方式
  シャッタースピード
  絞り
  露出補正
  測距方式
  フラッシュモード
  シャープネス
  彩度
  コントラスト
  ホワイトバランス
  感度
  フィルター
  色強調
  フラッシュ光量
  デジタルズーム
  訪問先
  撮影日時
  モデル名

参考
- アルバム部分を印刷する場合は、Webブラウザの設定を下記のようにしておくことをおすすめいたします。
  - アルバムが表示されているフレームを選択する。
  - なるべく余白を少なくする。
  - 背景の色を印刷可能な設定にする。
- 印刷や設定のしかたについては、Webブラウザの取扱説明書をお読みください。

5. アルバムを終了するには、Webブラウザを終了してください。

アルバムを保存するには

- 内蔵メモリーまたはメモリーカード内の"DCIM"フォルダごとパソコンのハードディスクやCD-R、MOディスクなどに保存してください。"ALBUM"フォルダだけでは、必要なファイルが保存されませんのでご注意ください。保存後は"DCIM"内のファイルを更新したり消去しないでください。新たに画像を加えたり、消去したりすると、アルバムが正常に表示されなくなることがあります。
- メモリーカードを再びデジタルカメラで使用するときは、以前のファイルをすべて消去するか、フォーマットしてから使うことをおすすめします。ただし、フォーマットすると、メモリー内のデータはすべて消えます。
- "用途"の設定を"WEB"にした場合は"ALBUM"フォルダのみでもアルバムを見ることができます。データ量が少ないので、素早くインターネットにアップロードすることができます。

ソフトをインストールする

付属のCD-ROMについて

付属のCD-ROMには、以下のソフトウェアが収録されています。各ソフトの内容を確認し､必要に応じてソフトをパソコンにインストールしてください。

USBドライバ(マスストレージ)(Windows用／Macintosh用)

デジタルカメラとパソコンをUSB接続するためのソフトです。

※ Windows XP、Mac OS 9/OS XではCD-ROM内のUSBドライバをインストールしないでください。USBケーブルでパソコンと接続するだけで、USB通信ができます。

Photo Loader(Windows用／Macintosh用)

JPEG/AVI形式で保存された画像／動画データを、デジタルカメラからパソコンに自動で取り込み、HTML形式のファイルで画像整理を行えるソフトです。

Photohands(Windows用)

画像データをレタッチしたり、印刷するためのソフトです。

Internet Explorer(Macintosh用)

HTMLファイルを読むためのブラウザソフトです。Photo Loaderで取り込んだ画像は、「ライブラリ」と呼ばれるフォルダに収められ管理されます。このソフトは、ライブラリ内の画像をパソコンのディスプレイ上で一覧表示するために使用します。

Direct X(Windows用)

デジタルカメラで撮影した動画ファイルを、Windows 98/2000で扱うためのコーディックが含まれる機能拡張ツールです。Windows XP/Meにはインストール不要です。

Acrobat Reader(Windows用/Macintosh用)

電子文書化されたPDFファイルを読むためのソフトです。CD-ROM内に収録されているPhoto Loader、Photohandsの取扱説明書を読むために使用します。

参考
- Photo Loader、Photohandsの操作方法に関する説明は、電子文書(PDFファイル)化され付属のCD-ROM内に収録されています。その取扱説明書をパソコンのディスプレイ上で表示する方法も本書に記載されていますので、「取扱説明書(PDFファイル)を読む」(114、116ページ)をよくお読みください。

パソコンの動作環境について

使用するソフトによって、必要な動作環境が異なります。以下の手順に従って確認してください。

Windows

付属のCD-ROM内の「お読みください」ファイルを参照して、使用するソフトの動作環境を確認してください。

Macintosh

付属のCD-ROM内の「CD-ROMの使いかた」ファイルをブラウザソフトでご覧ください。

重要!
- 付属のCD-ROMは、Mac OS Xには対応していません。

インストールする

付属のCD-ROM内に収録されているソフトウェアを、パソコンにインストールします。

- 既にパソコンにインストールしているソフトウェアは、バージョンを確認していただき、古い場合は、新たにインストールしてください。

Windows

■ 準備

1. パソコンを起動させ、CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れるとMENUが自動的に起動します。

- パソコンの設定によっては自動的にMENUが始まらない場合があります。この場合は、CD-ROMが割り当てられているドライブを開きMENU.exeをダブルクリックして起動させてください。

2. 「日本語」をクリックします。

- 英語のアプリケーションソフトをインストールしたい場合は「English」をクリックしてください。

■「お読みください」を読む

インストールする前に、必ずインストールするアプリケーションソフトの「お読みください」をお読みください。インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。

1. インストールしたいアプリケーションソフトの「お読みください」をクリックします。

■ ソフトのインストール

1. **インストールしたいアプリケーションソフトの「インストール」をクリックします。**

2. **手順にしたがってインストールします。**

重要!
- Photo Loaderのバージョンアップ、再インストールやパソコンを変更する場合で、以前使用していたライブラリ情報を継続させる方法については、「お読みください」をご覧になり、手順をご確認願います。
  手順通りにインストールしない場合、以前のライブラリ管理情報やカレンダー形式のHTMLファイルがPhoto Loaderで見ることができなくなるばかりか、取り込んだ画像ファイルが消失する恐れがあります。
- Windows XP以外では、USBドライバをインストールする前に、パソコンとカメラを接続しないでください。

■ 取扱説明書(PDFファイル)を読む

1. **“取扱説明書”のお読みになりたいアプリケーションソフトの名前をクリックします。**

重要!
- 取扱説明書をお読みになるには、パソコンにAdobe Acrobat Readerがインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、「ソフトのインストール」でAdobe Acrobat Readerをインストールしてください。

■ ユーザ登録をする

パソコンからインターネットを通してのみ、ユーザ登録をすることができます。ユーザ登録をするには、パソコンがインターネットに接続されていることが必要です。

※会員制Webサイト「QVNet」「Exilim オフィシャルサイト」(135 ページ)へのユーザ登録となります。ユーザ登録で登録いただいた個人情報のお取り扱いに関しては、Webサイト上の「QVNet をご利用になる前に」に記載されておりますので、ご確認をお願い致します。ユーザ登録はデジタルカメラ本体や付属ソフトのバージョンアップのご連絡その他情報発信を目的としております。付属ソフトウェアについては、ユーザ登録をしなくてもインストールや使用は可能です。

1. **「オンラインユーザ登録」をクリックします。**

- Webブラウザソフトが起動し、ユーザ登録が可能になります。画面の指示に従ってユーザ登録を行ってください。

2. **ユーザ登録が終了したら、インターネットの接続を終了してください。**

■ 終了

1. **「終了」をクリックします。**

- MENUを終了します。

Macintosh

■「CD-ROMの使いかた」を読む

インストールする前に、必ず「CD-ROMの使いかた」をお読みください。もし読めない場合は、下記の手順で付属のInternet Explorerをインストールしてください。

1. **付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。**

2. **CD-ROM内の「CD-ROMの使いかた」ファイルを開きます。**

3. **手順にしたがってInternet Explorerをインストールします。**

■ ソフトのインストール

インストールする前に、インストールするアプリケーションソフトの「はじめにお読みください」を必ずお読みください。インストールするために必要な条件や動作環境が書かれています。

1. **付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。**

2. **CD-ROM内の「CD-ROMの使いかた」ファイルを開きます。**

3. **「ソフトウェアについて」をクリックします。**

4. **インストールするソフトウェア名をクリックし、インストール方法を確認します。**

5. **手順にしたがってインストールします。**

重要!
- Photo Loaderのバージョンアップ、再インストールやパソコンを変更する場合で、以前使用していたライブラリ情報を継続させる方法については、「お読みください」ファイルをご覧になり、手順をご確認願います。
  手順通りにインストールしない場合、以前のライブラリ管理情報やカレンダー形式のHTMLファイルがPhoto Loaderで見ることができなくなるばかりか、取り込んだ画像ファイルが消失する恐れがあります。
- Mac OS 9/OS X以外では、USBドライバをインストールする前に、パソコンとカメラを接続しないでください。

■ 取扱説明書(PDFファイル)を読む

1. **付属のCD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。**

2. **CD-ROM内の「CD-ROMの使いかた」ファイルを開きます。**

3. **「取扱説明書を読む」をクリックします。**

4. **読みたいソフトウェア名をクリックし、取扱説明書を表示させます。**

重要!
- 取扱説明書をお読みになるには、パソコンにAdobe Acrobat Readerがインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、「ソフトのインストール」でAdobe Acrobat Readerをインストールしてください。

■ ユーザ登録をする

パソコンからインターネットを通してのみ、ユーザ登録をすることができます。Exilim サイト(135 ページ)にて登録を行ってください。

※会員制Webサイト「QVNet」「Exilimオフィシャルサイト」(135 ページ)へのユーザ登録となります。ユーザ登録で登録いただいた個人情報のお取り扱いに関しては、Web サイト上の「QVNet をご利用になる前に」に記載されておりますので、ご確認をお願い致します。ユーザ登録はデジタルカメラ本体や付属ソフトのバージョンアップのご連絡その他情報発信を目的としております。付属ソフトウェアについては、ユーザ登録をしなくてもインストールや使用は可能です。

メニュー一覧表

RECモード、PLAYモードの各タブのメニューに表示される項目の一覧表です。

- 下線の引いてある項目は工場出荷時に選択されている項目です。

RECモード

●撮影設定タブメニュー

項目	設定
撮影モード	(静止画)／BS(ベストショット)／(ムービー)
セルフタイマー	10秒／2秒／×3／切
サイズ	2048 ×1536／1600 ×1200／1280 ×960／640 ×480
画質	高精細／標準／エコノミー
EVシフト	-2.0／-1.7／-1.3／-1.0／-0.7／-0.3／0.0／+0.3／+0.7／+1.0／+1.3／+1.7／+2.0
ホワイトバランス	オート／太陽光／日陰／電球／蛍光灯／マニュアル
ISO 感度	オート／ISO 50／ISO 100 ／ISO 200
デジタルズーム	入／切
撮影レビュー	入／切
左右キー設定	撮影モード／EVシフト／ホワイトバランス／ISO感度／セルフタイマー／切

●モードメモリタブメニュー

項目	設定
撮影モード	入／切
フラッシュ	入／切
フォーカス方式	入／切
ホワイトバランス	入／切
ISO 感度	入／切
デジタルズーム	入／切
MF位置	入／切

●設定タブメニュー

操作音	入／切
起動画面	入(画像選択)／切
ファイルNo.	メモリする／メモリしない
ワールドタイム	自宅／訪問先
	ホームタイムの詳細設定 (都市名、サマータイムなど)
	ワールドタイムの詳細設定 (都市名、サマータイムなど)
日付表示スタイル	年/月/日／日/月/年／月/日/年
日時設定	日付と時刻の設定
Language	日本語／English／Français／Deutsch／Español／Italiano／Português／中國語／中国语／한국어
スリープ	30秒／1分／2分／切
オートパワーオフ	2分／5分
フォーマット	フォーマット／キャンセル
リセット	リセット／キャンセル

PLAYモード

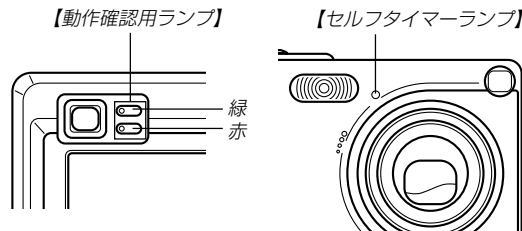
●再生設定タブメニュー

スライドショー	開始／表示画像／時間／間隔
カレンダー表示	—
お気に入り	表示／登録／消去／キャンセル
DPOF	選択画像／全画像／キャンセル
プロテクト	オン／全ファイル　オン／キャンセル
回転表示	回転／キャンセル
リサイズ	1280×960／640×480／キャンセル
トリミング	—
アラーム	アラームの詳細設定
コピー	内蔵→カード／カード→内蔵／キャンセル

●設定タブメニュー

操作音	入／切
起動画面	入（画像選択）／切
ファイルNo.	メモリする／メモリしない
ワールドタイム	自宅／訪問先
	ホームタイムの詳細設定（都市名、サマータイムなど）
	ワールドタイムの詳細設定（都市名、サマータイムなど）
日付表示スタイル	年/月/日／日/月/年／月/日/年
日時設定	日付と時刻の設定
Language	日本語／English／Français／Deutsch／Español／Italiano／Português／中國語／中国语／한국어
スリープ	30秒／1分／2分／切
オートパワーオフ	2分／5分
フォーマット	フォーマット／キャンセル
リセット	リセット／キャンセル

ランプの状態と動作内容

カメラ本体には緑と赤の【動作確認用ランプ】と、【セルフタイマーランプ】の3つのランプがあります。これらのランプは、カメラの動作内容によって、点灯したり点滅したりします。

※ランプの点滅間隔は3種類あります。点滅1では1秒間に1回、点滅2では1秒間に2回、点滅3では1秒間に4回点滅します。

RECモード

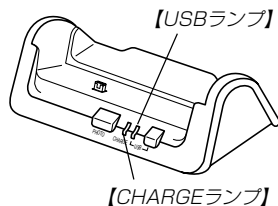
動作確認用ランプ		セルフタイマーランプ	内容
緑	赤	赤	
点灯			起動中(電源オン時、撮影可)
	点滅3		フラッシュ充電中
	点灯		フラッシュ充電完了
点灯			オートフォーカス合焦
点滅3			オートフォーカス合焦不可
点灯			LCDオフ
点滅2			撮影記録中
点滅1			ムービー取り込み中
		点滅1	セルフタイマーカウンドダウン 10～3秒前
		点滅2	セルフタイマーカウンドダウン 3～0秒前
	点滅1		フラッシュ充電不可
	点滅2		メモリーカード異常／メモリーカード未フォーマット／カスタム登録不可
	点灯		メモリーカードロック／フォルダ作成不可／メモリーフル／書き込みエラー
	点滅3		電池交換警告
点滅3			フォーマット中
点滅3			終了中(電源オフ時)

重要! • カメラにメモリーカードを入れているときは、緑の【動作確認用ランプ】が点滅中にメモリーカードを取り出すことは絶対にお止めください。撮影された画像がメモリーカードに記録されずに消えてしまいます。

PLAYモード

動作確認用ランプ		セルフタイマーランプ	内容
緑	赤	赤	
点灯			起動中(電源オン時、撮影可)
点滅3			消去実行中／DPOF実行中／プロテクト実行中／コピー実行中／アルバム作成中／フォーマット中／終了中(電源オフ時)
	点滅2		メモリーカード異常／メモリーカード未フォーマット
	点灯		メモリーカードロック／フォルダ作成不可／メモリーフル
	点滅3		電池交換警告

USBクレードルのランプ

USBクレードルには【CHARGEランプ】【USBランプ】の2つのランプがあります。これらのランプは、USBクレードルの動作内容によって、点灯したり点滅したりします。

CHARGEランプ		USBランプ		内容
色	状態	色	状態	
赤	点灯			充電中
緑	点灯			充電終了
オレンジ	点灯			充電待機中
赤	点滅			充電エラー
		緑	点灯	USB接続状態
		緑	点滅	メモリーアクセス中

故障かな？と思ったら

現象と対処方法

	現　　象	考えられる原因	対　　処
電源について	電源が入らない。	1) 電池が正しい向きに入っていない。 2) 電池が消耗している。	1) 電池を正しい向きに入れてください(→21ページ)。 2) 電池を充電してください(→23ページ)。それでもすぐに電池が消耗するときは電池の寿命です。別売のリチウムイオン充電池(NP-20)をお買い求めください。
	電源が勝手に切れた。	1) オートパワーオフが働いた(→29ページ)。 2) 電池が消耗している。	1) 再度電源を入れ直してください。 2) 電池を充電してください(→23ページ)。
撮影について	【シャッター】を押しても撮影できない。	1)【モードスイッチ】が“PLAY”になっている。 2)【フラッシュ】充電中である。 3) “メモリーがいっぱいです”と表示されている。	1)【モードスイッチ】を“REC”に合わせてください。 2)【フラッシュ】の充電が終わるまで待ってください。 3) パソコンに画像を転送後、不要な画像を消去するか、別のメモリーカードをセットしてください。
	オートフォーカスなのにピントが合わない。	1)【レンズ】が汚れている。 2) 被写体が【フォーカスフレーム】の中央にない。 3) ピントの合いにくい被写体である(→36ページ)。 4) 手ぶれしている。	1)【レンズ】をきれいにする。 2) 被写体を【フォーカスフレーム】の中央に合わせる。 3) マニュアルフォーカスモードに切り替えて手動でピントを合わせる(→45ページ)。 4) 三脚を使用してください。

	現　象	考えられる原因	対　処
撮影について	撮影した画像の被写体がボケている。	ピントが合っていない。	ピントを合わせたい被写体に【フォーカスフレーム】を合わせて撮影してください。
	セルフタイマーでの撮影の途中で電源が切れた。	電池が消耗している。	電池を充電してください(→23ページ)。
	【液晶モニター】に表示される画像のピントがあまい。	1）マニュアルフォーカスモードでピントが合わせがずれている。 2）被写体が風景や人物なのに、マクロモードになっている。 3）接写しているのに、オートフォーカスモードや"∞"(無限遠モード)になっている。	1）ピントを合わせる(→45ページ)。 2）風景や人物を撮影する場合は、オートフォーカスモードにする。 3）接写撮影をする場合はマクロモードにする。
	撮影したのに画像が保存されていない。	1）記録が終了する前に電池切れになった。 2）記録が終了する前にメモリーカードを抜いた。	1）バッテリー残量表示が ▭ になったら、速やかに電池を充電してください(→23ページ)。 2）記録が終了する前にメモリーカードを抜かないでください。
再生について	再生した画像の色が撮影時に【液晶モニター】で見た色と違う。	太陽光など光源からの直接光がレンズに当たっている。	直接光がレンズに当たらないようにしてください。
	画像が表示されない。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードを使用している。	DCF規格に準拠していない他のデジタルカメラで撮影したメモリーカードは、ファイル管理形式が異なるため再生できません。

	現　象	考えられる原因	対　処
その他	すべてのボタンやスイッチが働かない。	他の周辺機器との接続中に静電気や衝撃等により、回路内部に障害が発生した。	電池をいったん取り出し、入れ直してから再度操作してみてください。
	【液晶モニター】がつかない。	1）USB通信中である。 2）撮影モードで【液晶モニター】をオフにしている。	1）メモリーカードにパソコンからのアクセスがないことを確認し、USBクレードルの【USB】ボタンを押して【USB】ランプが消灯しているのを確認してから、カメラをUSBクレードルから取りはずしてください。 2）【DISP】を押して【液晶モニター】をオンにしてください。
	パソコンにUSB接続しても画像が取り込めない。	1）カメラがUSBクレードルに確実にセットされていない。 2) USBケーブルが確実に接続されていない。 3) USBドライバがインストールされていない。 4) カメラの電源が入っていない。	1）カメラとUSBクレードルの接合部を確認して、確実にセットしてください。 2) コネクター端子部を確認して、確実に接続してください。 3) USBドライバをインストールしてください（→93ページ）。 4) USBクレードルの【USB】ボタンを押してください。

画面に表示されるメッセージ

圧縮に失敗しました	画像データ記録中に圧縮不可能状態のとき表示されます。撮影し直してください。
カードが異常です	メモリーカードに異常が発生したときに表示されます。電源を切って、メモリーカードを差し直してください。再度電源を入れても同じメッセージが出るときは、フォーマットしてください(91ページ)。 **重要!** ●フォーマットを行うとメモリーカード内のすべての内容(ファイル)が消えてしまいます。フォーマットを行う前に、パソコン等を利用してメモリーカード内の正常なファイルを保存してください。
カードがフォーマットされていません	メモリーカードがフォーマットされていないときに表示されます。メモリーカードをフォーマットしてください(91ページ)。
カードがロックされています	SDメモリーカードに付いているLOCKスイッチがロックされている状態です。この状態では、記録、消去などファイルを操作することができません。
この機能は使用できません	カメラにメモリーカードを入れない状態で、内蔵メモリーからメモリーカードへファイルをコピーしようとしたときに表示されます(92ページ)。
このファイルではこの機能は使用できません	各種機能を実行しようとしたときに、実行できなかった場合に表示されます。
このファイルは再生できません	ファイルが壊れているか、本機で表示できないファイルを表示しようとしています。
これ以上登録できません	ベストショットモードでシーンフォルダの中に999シーンある状態でカスタム登録しようとした場合表示されます。
設定したファイルが見つかりません	スライドショーの“表示画面”で設定した画像が見つからないときに表示されます。もう一度設定し直してください(68ページ)。
電池容量が無くなりました	電池がなくなったときに表示されます。
ファイルが保存されませんでした	電池がなくなったため、撮影した画像ファイルが保存されませんでした。
ファイルがありません	まだ何も記録していない状態、または記録内容をすべて消去して本機にファイルが一つも無い状態です。

フォルダが作成できません	999番のフォルダの中に9,999番のファイルが登録されている状態で、撮影しようとしたときに表示されます。撮影を行いたい場合は、不要なファイルを消去する操作を行う必要があります(72ページ)。
プリントする画像がありません DPOF設定してください	プリントする画像が指定されていないときに表示されます。DPOFの設定を行ってください(76ページ)。
プリントエラー	プリント中のエラー時に表示されます。 ● プリンタ電源オフ ● 用紙未セット ● インク切れ ● プリンタ本体のエラーなど
メモリがいっぱいです	撮影可能枚数を使い切りました。撮影を行いたい場合は、不要なファイルを消去する操作を行う必要があります(72ページ)。
LENS EPPOR	レンズが動いているときにレンズに障害物が当たると、このメッセージが表示され、電源が切れます。障害物が無いことを確認して、再度電源を入れてください。
SYSTEM ERROR	カメラのシステムが壊れていますので、お買い上げの販売店またはカシオテクノ・サービスステーションにお問い合わせください。

主な仕様／別売品

主な仕様

品　名 .... デジタルカメラ

機種名 EX-Z3

■カメラ機能

記録画像ファイル

フォーマット .... 静止画：JPEG(Exif Ver.2.2)、DCF (Design rule for Camera File system) 1.0準拠、DPOF対応
動画　：AVI (Motion JPEG)

記録媒体 内蔵フラッシュメモリー10MB
SDメモリーカード(SD Memory Card)
マルチメディアカード(MultiMediaCard)

記録画素数 .... 静止画：2048 ×1536 pixels
1600 ×1200 pixels
1280 × 960 pixels
640 × 480 pixels

画像記録枚数／ファイルサイズ（可変長）

• 静止画

画像サイズ（pixels）	画像	画像ファイルサイズ	内蔵フラッシュメモリー10MB	SDメモリーカード* 64MB
2048×1536	高精細	約1.6MB	約5枚	約34枚
	標　準	約1.2MB	約7枚	約45枚
	エコノミー	約630KB	約14枚	約88枚
1600×1200（UXGA）	高精細	約1050KB	約8枚	約53枚
	標　準	約710KB	約12枚	約79枚
	エコノミー	約370KB	約24枚	約154枚
1280×960（SXGA）	高精細	約680KB	約13枚	約82枚
	標　準	約460KB	約20枚	約126枚
	エコノミー	約250KB	約35枚	約221枚
640×480（VGA）	高精細	約190KB	約46枚	約294枚
	標　準	約140KB	約61枚	約386枚
	エコノミー	約90KB	約98枚	約618枚

• 動画（320×240pixels）

記録容量	最大約130KB/秒
撮影時間	一度に撮影可能な最長時間：30秒 撮影可能なトータル時間： 最長約1分20秒（内蔵メモリーの場合） 最長約8分20秒（SDメモリーカード*64MBの場合）

※ 記録枚数は、撮影できる枚数の目安です。
※ 松下電器産業（株）製の場合です。撮影枚数はメーカーによって異なります。
※ 容量の異なるメモリーカードをご使用になる場合は、おおむねその容量に比例した枚数が撮影できます。

消去 .... 1ファイル単位、全ファイル一括消去可能（メモリープロテクト機能付き）

有効画素数 320万画素

撮像素子 .... 1/2.5型正方画素原色CCD（総画素数：334万画素）

レンズ／焦点距離 ...... F2.6-4.8/f=5.8〜17.4mm（35mmフィルム換算35〜105mm相当）

ズーム .... 光学ズーム3倍／デジタルズーム4倍（光学ズーム併用12倍）

焦点調節 .... コントラスト方式オートフォーカス、マクロモード、無限遠モード、フォーカスロック可能、マニュアルフォーカス可能

撮影可能距離（レンズ表面より）...... 標準：約40cm〜∞

接写 .... 6cm〜50cm（光学ズームは1〜1.8倍の範囲で使用できます。）

露出制御 .... 測光方式：撮像素子によるマルチパターン測光
制御方式：プログラムAE
露出補正：−2EV〜+2EV（1/3EV単位）

シャッター .... CCD電子シャッター／メカシャッター併用
1〜1/2000秒（撮影のモードやISO感度設定で変化します。）

絞り .... F2.6／4.3自動切替式

ホワイトバランス ...... 自動／固定（4モード）／マニュアル

セルフタイマー .... 作動時間約10秒、2秒、トリプルセルフタイマー

内蔵フラッシュ .... 発光モード：自動発光、発光禁止、強制発光、赤目軽減機能切替可能
フラッシュ撮影範囲（ISO感度オート時）：
広角時　約0.4m～約2.3m
望遠時　約0.4m～約1.5m

撮影関連機能 .... 通常モード、ベストショットモード、ムービーモード

モニター 2.0型TFTカラー液晶
84,960（354×240）画素

ファインダー .... 液晶モニター／光学式ファインダー

時計機能 .... クォーツデジタル時計内蔵
日付・時刻：画像データと同時に記録
自動カレンダー：2049年まで

ワールドタイム .... 世界162都市（32タイムゾーン）に対応
都市名、日付、時刻、サマータイム

入出力端子 .... クレードル接続端子
マイク .... モノラル

■電源部、その他

電源 .... リチウムイオン充電池（NP-20）×1個

電池寿命：

連続撮影枚数（撮影時間）※1	約450枚（約1時間15分）
標準撮影枚数（撮影時間）※2	約140枚（約1時間10分）
連続再生時間（静止画）※3	約2時間00分

電池寿命は、温度23°Cで使用した場合（25ページ）の電源が切れるまでの目安であり、保証時間ではありません。低温下で使うと、電池寿命は短くなります。

※1 連続撮影
温度（23°C）、液晶モニターオン、フラッシュ非点灯、約10秒に1枚撮影
※2 標準撮影
温度（23°C）、液晶モニターオン、フラッシュ発光（2枚に1回）、30秒毎にズームのワイド端とテレ端で交互に撮影、フラッシュ発光（2枚に1回）、10回撮影に1度電源を切／入操作
※3 連続再生
温度（23°C）、約10秒に1枚ページ送り

消費電力 .... DC 3.7V　約3.5W

外形寸法 .... 幅87mm×高さ57mm×奥行き22.9mm（突起部除く）

質量 .... 約126g（電池、付属品除く）

付属品 .... リチウムイオン充電池（NP-20）、USBクレードル（CA-21A）、ACアダプター（AD-C51J）、USBケーブル、ストラップ、CD-ROM、取扱説明書（保証書付き）

■リチウムイオン充電池（NP-20）

定格電圧 3.7V
定格容量 680mAh
使用周囲温度 .... 0～40℃
外形寸法 .... 幅33×高さ50×奥行4.7mm
質量 約16g

■USBクレードル(CA-21A)

入出力端子 .... カメラ接続端子、USB接続端子、外部電源端子(DC IN 5.3V)
消費電力 .... DC5.3V　約3.4W
サイズ .... 幅106mm×高さ42mm×奥行き59.5mm(突起部除く)
質量 約63g

■専用ACアダプター(AD-C51J)

入力電源 .... AC100－240V　50/60Hz　83mA
出力電源 .... DC5.3V　650mA
プラグ形状 .... Aタイプ(平２ピン)
サイズ .... 幅48mm×高さ16mm×奥行き69mm(突起部、ケーブル除く)
質量 約95g

電源について
- 電池は、必ず専用リチウムイオン充電池NP-20をお使いください。他の電池は使用できません。
- 本機には時計専用の電池は入っておりません。電池やUSBクレードルで電源が供給されていないと、約2日で日時がリセットされますので、その場合は再度設定してください(31ページ)。

液晶パネルについて
- 液晶モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高精度な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%未満の画素欠けや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。

レンズの特性について
- レンズの特性(歪曲収差)により、撮影した画像の直線が歪む(曲がる)場合がありますが、故障ではありません。

別売品

- モバイルチャージャー　BC-10L
- リチウムイオン充電池　NP-20
- ソフトケース　ESC-40
- ソフトケース　ESC-41
- ソフトケース　ESC-42
- ソフトケース　ESC-43
- ネックストラップ　ENS-1
- USBクレードル／ACアダプター※　CA-21

※本製品はUSBクレードル、専用ACアダプター、USBケーブルのセットです。自宅や職場用など数台必要な場合に、お買い求めください。
また、カメラに付属されているUSBクレードル(CA-21A)／ACアダプター(AD-C51J)と別売品のUSBクレードル(CA-21)／ACアダプター(AD-C50J)は一部仕様が異なりますが、カメラの使用において同様に使用できるものです。

別売品は、お買い求めの販売店もしくは、カシオ・オンラインショッピングサイト(e-カシオ)にご用命ください。

e-カシオ：http://www.e-casio.co.jp/

カシオデジタルカメラに関する情報は、カシオホームページでもご覧になることができます。

http://www.casio.co.jp/

索引

英数字

あ

か

さ

た

な

は

ま

ら

わ

ExilimオフィシャルWebサイトのお知らせ

当サイトは、Exilimのオフィシャル情報発信サイトです。

http://www.exilim.jp/

■ユーザー登録の仕方

ユーザー登録はExilimサイト(http://www.exilim.jp/)の【Registration】からご利用のデジタルカメラを選択して登録を行ってください。

ご登録いただいた方への特典

Download	Exilim News
最新ファームウェア・バージョンアップ・ソフトウェアがダウンロードできます。	会員向情報メールにより[www.exilim.jp]の更新情報、製品関連の最新情報、特典情報等を配信します。
Exilim Collection	**Exilim BBS**
登録された会員様だけにExilim起動画面ファイルなどを配信します。	開発フォーラムで「製品開発」に関する意見を交換することができます。

一般公開のサービス内容

Exilim Avenue

Faces	Sense
こだわりとスタイルを持った人々がExilimの魅力を語ります。	Exilimを格好良く身に付けるポイントをレポートします。
Story	**Wallpaper**
Exilim開発スタッフが語る秘話を紹介します。	パソコン用壁紙がダウンロード可能です。
Edge of the World	**Collection**
ニューヨーク、ロンドン、上海など国際都市からExilimを通してレポートします。	TVCMのMP3ファイル等を公開します。

その他のExilim関連WEB情報

Exilim Info	Exilim Support
製品情報／サンプル画像	各種FAQや動作確認情報

＊ Exilim.jpのサービス内容は会員の意見・要望や公開アンケートの結果により変更される場合があります。あらかじめご了承ください。